

2000年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

美術設計

美術設計

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
都市社会学		通 期	4 単位	大谷 信介
[講義概要・学習目標] 都市社会学の困難さは、それが対象とする<都市>を定義すること自体が難しいことに起因している。しかし、人間は日常生活のなかで、なんとなくではあるが<都市的なもの>（たとえば「都会」-「田舎」という言葉に包含される意味内容に象徴されるもの）の存在を実感していることも確かな事実である。「この各個人が<都市的>と実感している特徴や特性＝<都市的なもの>本質は、いったい何なのだろうか？」この講義では、これまでの都市社会学が追及してきた中心的テーマである上記の疑問を、都市住民のパーソナル・ネットワークの実証分析を通して実際に解明していくことを目標としている。また講義の中では、世界の都市社会学の研究動向、日本都市社会学研究の問題点を整理するとともに、最近注目を集めているネットワーク研究の動向についても整理検討していく予定である。	[講義計画] <前期> 1 Introduction (この講義の目的・内容について) 2 都市の定義に関する諸説 3 結節機関説 4 自然都市と行政都市都市 5 ウェルハールの都市理論 6 比較都市類型論 (西洋都市と東洋都市) 7 シカゴ学派と新都市社会学 8 シカゴでなぜ都市社会学が発展したか？ 9 人間生態学の議論 (パーク) 10 アーバンイズム論 (ワース) 11 アーバンイズム論に対する批判 12 フィッシャーによるアーバンイズム論の理論的修正 13 下位文化理論の理論的背景・立論構造 14 まとめ <後期> 1 コミュニティとネットワーク 2 戦後地域開発と住民運動・コミュニティ形成論 3 町内会とボランティア・カサージュ 4 都市住民の行動実態や状況に対応した地域政策 5 ネットワークとしてのコミュニティ・コミュニティ解放論 6 先駆的ネットワーク調査：北米と日本のパーソナルネットワーク 7 都市化とパーソナル・ネットワーク 8 都市的ネットワーク：多重送信型・親密な第2次的関係 9 大都市大学生と地方都市大学生の友人ネットワークの比較 10 人間関係の激変：携帯電話の普及と友人関係 11 居住類型別ネットワーク特性 12 一戸建て居住者とマンション居住者の人間関係 13 都市社会学におけるパーソナル・ネットワーク研究			
[成績評価の方法] 期末試験および平常の提出物等を総合評価する	[参考文献] 奥田道大編『講座社会学4 都市』東大出版会 1999年 M. カテル『都市・情報・グローバル社会』青木書店 1999年 吉見俊哉編『都市と都市化の社会学』岩波書店 1998年 C. S. フィッシャー『都市的体験』未来社 1997年 松本康編『21世紀の都市社会学 1巻 増殖するネットワーク』勁草書房 1995年 鈴木広編『現代都市を解説する』ミネルヴァ書房 1992年 奥田道大編訳『都市の理論のために』多賀出版 1983年 鈴木広編『都市化の社会学』誠信書房 1965年			
[教科書] 大谷信介『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』ミネルヴァ書房 1995年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化社会学		通 期	4 単位	北川 紀男
[講義概要・学習目標] 文化は人間にとって第二の本能であるといわれるほど、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、次いで人間と文化との間に存在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処変われば、品変わる」とは、文化と社会の関係を巧くいいて、社会学的にみて興味ある表現である。 以上の基礎的な考察を踏まえて、後期は、複雑多岐に分化し、目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」、「国際化」、「情報化」、「共生化」の視点にたって、批判的に考察をすすめてみたい。 現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。	[講義計画] <前 期> ①イントロダクション ～社会学の認識について～ ②社会学における文化の研究 ～歴史と方法論～ ③文化の概念 ～シンボル・意味・価値～ ④文化と社会規範 ～規範・社会化・タブー～ ⑤生活文化 ～生活様式としての文化～ ⑥文化と文明 ～文明社会の諸問題～ <後 期> ①知識の社会学 ～知識・イデオロギー・科学～ ②大衆化と文化 ～大衆文化・被操作性～ ③国際化と文化 ～民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーション～ ④情報化と文化 ～情報化社会・ニューメディア～ ⑤共生化と文化 ～高齢者・障害者・ジェンダー～ ⑥文化変動と社会変動			
[成績評価の方法] 成績評価は、主に、夏期休暇中の課題として課すレポートと学年末試験に基づいておこなうが、月に一度おこなう出席状況調査の結果も加味する。	[参考文献] 参考文献については、5月の連休明けの講義で「文化社会学参考文献リスト」として配布するので必ず受け取ること。			
[教科書] 北川 紀男『文化社会学研究』1999年（八千代出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化人類学	01	通 期	4 単位	小 池 誠
【講義概要・学習目標】 文化人類学は、自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチと方法論を通して異なる文化と社会にたいする理解を深めることを目的とする。様々な民族の多様性だけでなく、多様性を通してあらわれてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか遅れたものと見なすのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化人類学の視点を理解してもらいたい。また、今日の国際政治のなかで大きな話題となっている国家と民族の関係についても、より身近な問題として考えてもらいたい。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。	【講義計画】 〔前期〕 1 文化人類学とは何か？ 2 人類の文化と言語（文化とは何か、人類の言語はどんな役割をもつのか？） 3 家族と結婚の多様性（私たちにとって家族とは、結婚とは何か？そして異文化では） 〔後期〕 1 政治と経済（どうやって人は力をもつか、交換はどんな意味をもつのか？） 2 国家と民族（民族とは何か、なぜ民族は対立し憎しみあうようになるのか？） 3 宗教と儀礼（人は何を信じ、何を願うのか？）			
【成績評価の方法】 年度末試験の成績を基本にして評価する。ただし、夏休みの課題レポートと必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。	【参考文献】 講義のなかで必要に応じて紹介する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 社 会 学		通 期	4 単位	宮 崎 和 夫
〔講義概要・学習目標〕 教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。 本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、2歳児の殺人事件にまでなった「お受験」をはじめ学歴社会問題、受験競争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やTV文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的問題点との関連を具体的かつ多面的に考察する。 その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。				
〔講義計画〕 （前期） 1. 現代社会の特質と教育 2. 情報化社会と教育 3. 国際化社会と教育 4. 少子高齢社会と教育 5. 学歴社会と教育 6. 管理社会と教育 7. 学習社会と生涯教育 （後期） 8. 人権問題と教育 9. 学力保障と教育機会 10. ジェンダーと教育 11. 社会階層と教育 12. 学校の官僚制と教師集団 13. 社会変動と教育改革				
〔成績評価の方法〕 学年末試験の成績と年間数回提出してもらうミニレポートなどを総合して評価する。				
〔参考文献〕 1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社） 2. 宮崎和夫（編著）「新現代教育原理」（学文社） 3. 麻生 誠他著「学校の社会学」（学文社）				
〔教科書〕 宮崎和夫（編著）「現代社会と教育の視点」（ミネルヴァ書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社 会 病 理 学		通 期	4 単位	菰 渕 緑
〔講義概要・学習目標〕 社会病理学は、社会に生じている解決困難な諸問題を分析するための学問の一つである。社会的な諸問題が生じてくる原因、過程、結果などを理論的に究明し、解決へ向けての方向性を探ることを目的としている。本講では社会病理学の発達過程をその社会的背景の解明とともに論じ、さらに代表的な社会病理学理論を新しい視点から見直す。そして改めて社会病理とは何か、病理判定の基準とは、という基本的な問題を検討していく。				
〔講義計画〕 1. 社会病理学とは何か 2. 社会病理学の分野 3. 社会病理学研究の系譜 - ヨーロッパにおける社会病理学研究 - アメリカにおける社会病理学研究 - 日本における社会病理学研究 4. 社会病理学の諸理論 - 社会不適応論、疎外論、文化遅滞論、社会解体論、アノミー論 - 逸脱行動論、ラベリング論など 5. 社会病理の判定基準				
〔参考文献〕 その都度、紹介する				
〔成績評価の方法〕 筆記試験によって評価する				
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業社会学		通 期	4 単位	上 田 修
【講義概要・学習目標】 いわゆるバブル経済の崩壊とともに、金融業を中心として日本企業に対する評価が著しく低下した。金融不安はいまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらに能力主義の深化・徹底化は、かつて日本的と称された制度、特徴に対する信頼を揺るがせ、評価の大幅な低下にも結びついている。しかし、戦後の時期に限っても、日本企業における雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変わってきた。この点を念頭におき、この授業では、日本企業が採用する雇用・人事・労務管理制度の特徴をアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかにこれらが変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本の特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。	【講義計画】 I 総論 1 日本企業をめぐる評価とその変遷 2 日本人的特質と実態 II 制度と政策の歴史的展開 1 労務管理：年功制から能力主義へ 2 人事管理：伝統的管理と能力主義 3 雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用 4 賃金：平等と格差 5 労使関係と労働組合：企業別組合と協調的労使関係 III 変わる労働世界 1 労働市場の変容と労働政策の転換 2 女性労働の増大：均等法と女性の労働世界 3 ホワイトカラーの労働と管理 4 企業社会：存続それとも動揺？			
【成績評価の方法】 前期末試験ならびに学年末試験の成績で評価する。配点は前期末50点、学年末50点の計100点。	【参考文献】 使用しない。ただし、各パートに入るとき、講義内容の概略(レジュメ)を配布する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業心理学		通 期	4 単位	西川 一廉
【講義概要・学習目標】 いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。 ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、高齢化する社会の中での仕事、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と処遇、雇用環境と中高年問題、職場のストレスとメンタルヘルス等々、職場生活は多様な問題を内包している。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。たとえば会社＝社会と考える人もいれば、会社は社会の1部にすぎないと考える人もいる。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。 当講義では、このようにダイナミックに変化する労働環境下での働く人々について、心理学の立場から考える。	【講義計画】 I. 前期 勤労者の生きがい、働く意欲、職場のメンタルヘルス、仕事と家族など、具体的資料を使って主として勤労意識とその変化について考える。 II. 後期 コンピュータ化、情報化、産業安全と事故防止、人事管理と能力開発、職場の人間関係、リーダーシップなど、主として労働環境と働く人々との相互作用について考える。			
【成績評価の方法】 成績の評価は期末試験による。	【参考文献】 N I P 研究会（編） 1995 『現代ライフ・スタイルの分析』 信山社			
【教科書】 N I P 研究会（編） 1997 『21世紀の産業心理学』 福村出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会政策総論		通 期	4 単位	小 川 登
〔講義概要・学習目標〕 社会政策の基本と戦後日本の社会政策について学ぶ。 1、現代社会政策の展開と分析視角 2、資本主義の生成期・産業資本主義段階と社会政策 3、独占資本主義段階と社会政策の発展 4、労働組合政策と労使関係 5、賃金政策と所得分配 6、労働市場政策（とくに雇用調整について） 7、社会保障政策の展開 8、労働者保護政策 9、高齢化社会と労働・社会問題 10、技術革新と労働問題 11、女性労働の問題点 12、ホワイトカラー労働と社会政策 13、現代日本の社会政策の展開と背景	〔講義計画〕 （前期）教科書の1～7について （後期）教科書の8～13について			
〔成績評価の方法〕 学年末試験。	〔参考文献〕 授業の中で指示する。			
〔教科書〕 石畑良太郎・佐野 稔（編）「現代の社会政策（第3版）」（有斐閣）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査実習		通 期	4単位	竹 中 英 紀
〔講義概要・学習目標〕 この科目は「社会調査」の単位履修者を対象に、少人数・演習形式によって、社会調査の企画から実施、データ分析、報告書作成までのすべての過程を一通り体験することを目的として開講される。 今年度は、大学周辺地域の住民約1,000名を対象とする郵送調査の実施を予定している。年度当初に統一テーマを決めて、サブテーマ別に4～5人の班を編成し、それぞれの課題や作業に取り組んでもらうこととする。 なお、この科目を履修しようとする者は、同時に「社会学特講（社会調査方法論）」「社会学特講（データ解析演習）」も履修すること。 さらに、正規の授業時間以外にも（休暇期間中にも）きわめて多くの学習・作業時間を必要とするので、安易な気持ちで受講してはならない。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。	〔講義計画〕 ・社会調査の企画・立案 ・調査票の作成 ・調査の実施 ・調査データの解析 ・調査報告書の作成			
〔成績評価の方法〕 授業に最後まで出席し、報告書の執筆を担当した者だけが単位認定の対象者となる。	〔参考文献〕 ・桃山学院大学社会学部社会調査実習室『社会調査実習報告書』（1994年度以降、毎年発行） ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社 ・大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房			
〔教科書〕 とくに使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講 (データ解析演習)		後 期	2単位	竹 中 英 紀
[講義概要・学習目標] この科目は「社会調査」の単位履修者を対象に、「社会調査実習」と並行して開講するもので、コンピュータを用いたデータ解析法の修得を目標とする。「社会調査実習」履修者は、かならず履修すること。 授業は実質上「社会調査実習」と一続きで行われるが、とくにこの「社会学特講（データ解析演習）」の部分に関しては、主として社会調査データのコンピュータによる分析技法の習得に重点をおく。「社会調査実習」および「社会学特講（データ解析演習）」とあわせて、かなりハードな授業になることを覚悟のうえで受講すること。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。	[講義計画] ・統計パッケージ SPSS の利用方法 ・コンピュータ上での変数の定義 ・データ入力と修正・加工 ・度数分布表とクロス集計表の作成 ・合成変数（尺度）の構成 ・クロス集計とエラボレーション ・多変量解析法			
[成績評価の方法] 授業態度、作業課題の達成度により成績を評価する。	[参考文献] ・内田治『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析』東京図書 ・桃山学院大学計算機センター『ユーザーズ・ガイド』			
[教科書] とくに使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講 (社会調査方法論)		前 期	2単位	竹 中 英 紀
[講義概要・学習目標] この科目は「社会調査」の単位履修者を対象に、「社会調査実習」と並行して開講するもので、社会調査のより高度な技法について理解を得ることを目標とする。「社会調査実習」履修者は、かならず同時に履修登録すること。 授業は実質上「社会調査実習」と一続きで行われるが、とくにこの「社会学特講（社会調査方法論）」の部分に関しては、主として社会調査の理論的側面に重点をおく。「社会調査実習」および「社会学特講（データ解析演習）」とあわせて、かなりハードな授業になることを覚悟のうえで受講すること。遅刻・無断欠席は履修放棄とみなすことがある。	[講義計画] ・標本抽出法 ・統計的検定 ・クロス集計とエラボレーション ・コーディング ・尺度構成法			
[成績評価の方法] 授業態度、作業課題の達成度により成績を評価する。	[参考文献] ・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社 ・大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会			
[教科書] とくに使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マス・コミュニケーション論Ⅰ		通 期	4 単位	中 村 秀 之
【講義概要・学習目標】 マス・コミュニケーションにおける視覚メディアの重要性はあらためて強調するまでもない。現代社会は、高度なテクノロジーによって支えられた視覚メディアが、多様な社会関係や人々の日常経験に大きな影響を及ぼしている〈映像社会〉である。しかし同時に、そうした視覚メディアやテクノロジーこそ、資本主義社会の発展によって産み出されたものであることも忘れてはならない。 本講義では、映画やテレビはもちろん印刷物まで対象として、視覚メディアとそのテクノロジーを、近現代社会の複雑で急激な変化のなかに位置づけることによって、現在に至る〈映像社会〉の形成過程とその構造、関連する諸問題を概観する。	【講義計画】 1. 〈映像社会〉の前史（1830～1870年代） 19世紀の視覚文化：道具的イメージの時代 2. 〈映像社会〉の懐胎（1880～1920年代） イメージの機械化：映画の発明と広告の発展 3. 〈映像社会〉の誕生（1930～1950年代） イメージの情報メディア化とシステム統合：ラジオとトーキー 4. 〈映像社会〉の発展（1950～1970年代） メディア的現実の構成：テレビの時代 5. 〈映像社会〉の現在（1980年代～） 視覚メディアの変貌：デジタル・イメージの登場			
【成績評価の方法】 前期末と学年末の筆記試験による。	【参考文献】 J. パージャー（著）『イメージ』（PARCO 出版、1986年） W. J. T. ミッチェル（著）『イコノロジー』（勁草書房、1992年） J. クレーリー（著）『観察者の系譜』（十月社、1997年） 岩本憲児他（編）『「新」映画理論集成』①、②（フィルムアート社、1998～1999年） その他、授業中に紹介する。			
【教科書】 特に使用しない。適宜プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マス・コミュニケーション論Ⅱ		通 期	4 単位	津金澤 聡 廣
【講義概要・学習目標】 我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、これらの情報攝取をとおして「リカバ」その時代の「常識」や社会風俗を吸収してことが多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何ぞや、マス・メディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何か問題なのかと、共に考え、検討したいと思う。	【講義計画】 次の各領域について概説を行う。 1. コミュニケーション、マス・メディア、マス・コミュニケーション 2. コミュニケーション史とジャーナリズム史 3. マス・メディアをめぐる法学的諸問題 4. 新聞倫理綱領と新聞編集に関する法規 5. 放送法の諸問題 6. マス・メディアをめぐる社会心理の問題化 7. 「高度情報化」社会とは何か 8. 「高度情報化」現象の進展とマス・メディア 9. 現代社会におけるマス・メディアと生活文化			
【成績評価の方法】 平常英（レポート等）と学期末試験による総合評価。	【参考文献】 その都度指示する。			
【教科書】 津金澤 聡廣・田宮武『テレビ放送への提言』 シェルヴァ書房、1999年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際関係論		通 期	4 単位	松村昌廣
【講義概要・学習目標】 国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。	【講義計画】 1 導入 1) 国際関係論と国際関係における日本 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解 3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論 (1) 現実主義 VS 理想主義 (2) 伝統主義 VS 科学主義 (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義 (4) 講師の見解 2 総論 1) 基本的捉え方 (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム (4) 講師の見解 2) 分析のレベル (1) 政策決定システム (2) 国家システム (3) 国際システム (4) 講師の見解 3 各論 1) 軍事的側面 (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解 2) 経済的側面 (貿易・金融・投資・技術・開発) (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義 (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解 3) 秩序づけのための組織化側面 (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム 4 結論 1) 冷戦後の国際構造 2) 日本の国際行動とその将来			
【成績評価の方法】 1) 出席・受講状態 50% 2) 前期試験 20% 3) 後期試験 30% 4) 冬休みレポート 20% (希望者のみ) * 冬休みレポート 参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しなさい。 * 評価の目安 80～100% . . . A 70～79% . . . B 60～69% . . . C				
【教科書】 P.ビオティ&M.カピ『国際関係論』(彩流社) ロバート・ギルビン『世界システムの政治経済学』(東洋経済新報社)	【参考文献】 E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫) モーゲンソー『国際政治』(福村出版) シューマン『国際政治』(東大出版会)			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国 際 機 構 論		前期集中	4 単位	軽 部 恵 子
〔講義概要・学習目標〕 このクラスでは前半に国際機構（とくに国連）の成り立ちと仕組みを勉強します。後半は「女性に対する暴力」をテーマに掘り下げていきます。 最近ようやく日本でも、ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメントなど「女性に対する暴力」への問題意識が高まってきました。国際社会では旧ユーゴスラビア紛争に見られるように、「女性に対する暴力」が戦争の手段として使用されてきました。法律や条約の上でどんなに男女平等が謳われても、肉体的な力が弱い女性はとくに武力紛争下で暴力のターゲットになっています。 「女性に対する暴力」の被害者は女性ばかりではありません。女性の夫、恋人、両親、子ども、兄弟も含まれます。私たちはどうしたらこのような状況をなくせるのでしょうか。男女ともに問題意識を持った受講生を待っています。 なお、国際法と並行して勉強するとより効果的です（両者の導入部分は似ていますが、全く別の科目です）。		〔講義計画〕 <前半> 国際機構の基礎を学びます。 1. 国際機構とは何か 2. 第一次世界大戦と国際連盟の設立 3. 第二次世界大戦と国際連合の設立 4. 国連憲章の仕組み 5. 国連の主要機関の役割、国連の専門機関、NGO 6. 国連と人権の保障：国連憲章、経済社会理事会 他 <後半> テーマ：「女性に対する暴力」と国際機構 世界女性会議、女性の地位委員会、女性差別撤廃条約、同条約選択議定書、武力紛争下の女性（難民女性、「従軍慰安婦」、旧ユーゴスラビア紛争の「民族浄化」他）、ドメスティック・バイオレンス（DV）、セクシュアル・ハラスメントなどを取り上げます。 ※ 上記以外でも国際機構に関係ある重大ニュースや事件は随時取り上げます。		
〔成績評価の方法〕 学期末試験		〔参考文献〕 三省堂 『国際関係法辞典』 1995年 横田洋三編 『国際法入門』 有斐閣 1997年 大沼保昭編 『資料で読み解く国際法』 東信堂 1996年 奥脇直也他 『国際法キーワード』 有斐閣 1997年 吉田康彦 『図解 国連のしくみ』 日本実業出版社 1995年 国連広報局編 『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』 中央大学出版部 1997年 その他の文献は授業中に指示する。		
〔教科書〕 * 国連広報局編 『国際連合の基礎知識』（増補改訂5版）世界の動き社 1999年 * 授業で配布する資料				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治史		通 期	4 単位	村 山 高 康
〔講義概要・学習目標〕 冷戦構造崩壊後の世界は、ヨーロッパのように経済統合から政治統合へ向かう動きがある一方、民族紛争などで国家の分裂や内乱が多発している地域も増えている。また経済の globalization が急速に進むなかで、世界不況・南北問題・環境問題の深刻化も避けることのできない課題となっている。この講義では、これら現代の諸問題を考える前提として、20世紀「現代史」を大きく考察対象として、この世紀のもつ意味を再検討することを試みる。		〔講義計画〕 <前期> 1. 20世紀の意味について 2. 第1次世界大戦 3. 戦間期－1919～1939年 <後期> 1. 第2次世界大戦 2. 戦後冷戦の時代 3. 冷戦終焉後の現在と国際世界		
〔成績評価の方法〕 学年末試験		〔参考文献〕 講義の中で随時指示する。		
〔教科書〕 特定の教科書は使用しないが、『世界史年表・地図』（吉川弘文館）を常時携帯のこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国 際 法		前期集中	4 単位	軽 部 恵 子
〔講義概要・学習目標〕 このクラスではまず前半に国際法の基本的な知識を習得します。国際法の原則がわかると、新聞やTVの国際ニュースに強くなります。それは、国際法が国際社会で国家の行動を規制する共通のルールだからです。 後半は「核兵器」をテーマに掘り下げます。世界ではイラクや北朝鮮の核開発疑惑、インド・パキスタンの核実験（1998年5月）と、不安定な動きが続いています。1999年10月には、冷戦終結後の核軍縮に最も重要な包括的核実験禁止条約（CTBT）の批准が米国上院で否決されました。冷戦が終わっても核兵器がなくならないのはなぜでしょうか。 核兵器に関して問題意識を持っている人、国際問題全般に強くなりたい人は、ぜひこのクラスを履修して下さい。なお、国際機構論と並行して勉強するとより効果的です（両者の導入部分は似ていますが、全く別の科目です）。		〔講義計画〕 ＜前半＞ 国際法の基礎を学びます。 1. 国際法とは何か：国家の意義、条約と慣習法 他 2. 国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議 他 3. 第一次世界大戦と近代兵器の出現 4. 第二次世界大戦とホロコースト 5. 国際法の主要原則：「合意は拘束する」 他 6. 国際法の主体：国家、国際機構、人民 7. 国家の基本的な権利と義務 8. 条約：条約の作成から終了まで、条約の留保 ＜後半＞ テーマ：核兵器と国際法 マンハッタン計画、第五福龍丸の被曝、原爆判決（下田事件）、キューバ・ミサイル危機、主要な核軍縮条約、国際司法裁判所の勧告的意見などを取り上げます。 ※ 上記以外の重大ニュースや事件も随時取り上げます。		
〔成績評価の方法〕 学期末試験		〔参考文献〕 三省堂『国際関係法辞典』1995年 横田洋三編『国際法入門』有斐閣 1997年 大沼保昭編『資料で読み解く国際法』東信堂 1996年 奥脇直也他『国際法キーワード』有斐閣 1997年 吉田康彦『図解 国連のしくみ』日本実業出版社 1995年 国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年 同『国際連合の基礎知識』（増補改訂4版）世界の動き社 1997年 <u>その他の文献は授業中に指示する。</u>		
〔教科書〕 ＊ 有斐閣『国際条約集2000』 （授業で毎回使用しますので、必ず購入して下さい） ＊ 授業で配布する資料				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学原論		通 期	4 単位	捧 堅 二
【講義概要・学習目標】 この講義では政治学の理論について学びます。しかし外国の理論の学説イロイロ集でなく、つねに現代を、そして現在の状況をいかに理解するかという問題意識から出発して、さまざまな事象について論じたいと思います。	【講義計画】 0 共同体と外部——世界市民の政治理論 1 原理と自然 2 政治学の起源 3 左と右——空間のメタファ 4 政治における思想と行動 5 イデオロギ——言説と信念 6 真理の政治——プラトンからレーニンまで 7 人間と政治——マキャヴェッリとミルグラムの実験 8 国家——国家と漂泊民 9 国家と外部——戦争の世紀からグローバリゼーションの世紀へ 10 民主主義——民主主義的寡頭政治を超えて 11 共和主義——ビープルと公共性 12 三つの自由主義——新しい「ニュー・リベラリズム」は可能か 13 社会主義——近代国家からの脱埋め込み 14 天皇制と民主主義における「顕教」と「密教」			
【成績評価の方法】 出席・試験・レポート	【参考文献】 講義の際に示す			
【教科書】 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅰ（欧米の政治と社会） （旧地域研究Ⅰ）		通 期	4 単位	村 山 高 康
【講義概要・学習目標】 アメリカ（合衆国）とヨーロッパ（おもに西欧諸国）の政治と社会の現状分析を中心に講義する。前期は、はじめに欧米政治の現状を理解するため、第2次大戦後の冷戦史の概観を行い、つづいて現代欧米世界の政治・経済・社会に関するとりわけ冷戦構造崩壊後の動向を分析した後、アメリカについて80年代から90年代にかけての大きな社会変動のもつ意味の考察や、2000年の大統領選挙についても予測を試みる。後期は、欧州連合（EU）の現状と今後の動向について、国家主権・安全保障・経済統合・民族問題・地域統合などの課題を順次とりあげ分析する。		【講義計画】 <前期> 1. 冷戦と冷戦後の世界 2. 1980年代以降のアメリカ社会の変動 3. アメリカの伝統的政治思想の混迷 4. 2000年の大統領選挙について <後期> 1. ヨーロッパ世界の現状 2. 欧州連合へのあゆみ 3. 欧州連合の現状と問題点 4. 欧米世界の直面する課題		
【成績評価の方法】 学年末試験		【参考文献】 講義の中で随時指示する		
【教科書】 特定の教科書は使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅱ（ロシア・東欧の政治と社会） （旧地域研究Ⅱ）		後期集中	4 単位	鈴 木 博 信
【講義概要・学習目標】 「ソビエト帝国の興隆と崩壊」 が全体のテーマです。 【Ⅰ】 ソビエト連邦（「内帝国」）の東欧支配（「外帝国」）の形成はどのようにして、はじまったか？ 【Ⅱ】 東欧諸民族は、どのようにして、どのように対抗を仕えたか？ 【Ⅲ】 東欧諸民族（「外帝国」）はどのようにして、クレムリンの支配から離脱（1989）したか？ / またソ連邦本体（「内帝国」）は、どのようにして崩壊したのか（1991）？ 以上の問題を肉にかきつ、「共産党一党支配」と「命令経済」を骨格とするソビエト帝国は、なぜ70年おきの「革命」の崩壊に理由をさぐる。		【講義計画】 【Ⅰ】 ソビエト連邦の東欧支配はどのようにして、はじまったか？ 1. ヤルタ 1945 — 第2次大戦と東欧再分割 2. パオヴロド 1948 — 「もくもく新帝国」に、はやくも電裂 【Ⅱ】 東欧諸民族は、どのようにして、自立・独立をもとめてきたか？ 3. プダペスト 1956 — 「雪どけ」から「再凍結」 4. プラハ 1968 — 「人権問題を社会主義」は戦争の「種」 【Ⅲ】 東欧諸民族はどのようにして、クレムリンの支配から離脱したか？ 5. グダニスク 1980 — 「古典的労働者革命」は、社会主義国で起きた！ 6. バルシン 1989 — ゴルバチョフ登場と「外帝国」の崩壊 7. モスクワ 1991 — ソビエト連邦本体は「内帝国」の瓦解 8. ソビエト連邦は、さとうの帝国か？		
【成績評価の方法】 ① 年度末試験（レポートに代る可あり） ② 必要に応じて講義1～2回の小レポート、を総合に評価する。		【参考文献】 ○ アダム・ウラム、鈴木博信訳「腹の膨れと共産主義」ソビエト外交史 全3巻 サイマル出版会 1974 ○ 川崎香男監修「ロシア・ソ連を知る事典」平凡社 1990 ○ 伊東春之助監修「東欧を知る事典」平凡社 1993 ○ アレクサンドロフ、木村浩志訳「ソビエト連邦の歴史1944-1989」1989 ○ 木村浩志「激動の東欧史」中公新書 1990 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1991 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1992 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1993 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1994 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1995 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1996 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1997 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1998 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 1999 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2000 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2001 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2002 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2003 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2004 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2005 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2006 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2007 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2008 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2009 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2010 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2011 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2012 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2013 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2014 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2015 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2016 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2017 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2018 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2019 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2020 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2021 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2022 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2023 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2024 ○ 木村浩志「ソビエト連邦の歴史」中公新書 2025		
【教科書】 講師が1～2年のうち、パンフレットを作成する予定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅲ（発展途上国の政治と社会） （旧地域研究Ⅲ）		通 期	4 単位	村 上 公 敏
【講義概要・学習目標】 この講義では、世界の中心地域、東南アジア社会や文化の捉え方を、次の三つの方法論的視角から論ずる。 1. 東南アジアの人口分布とエコロジー的特徴を通じて、地域とは何か、地域研究の目標とは何かの基本を考える。 2. 先史から古代までの社会と開成された東南アジア社会と文化の基本特徴（基層文化）をつかむ。 3. 世界史の一部、あるいは、他地域から文明・文化的影響、それらがこの地域がらうの対応関係から、地域の社会・文化の歴史的形態が浮きほらにされてきたことを明らかにする。中国文明、インド文明、イスラーム文明、西欧文明に対する東南アジア地域住民の対応と受容の内的態度のプロセスと結果がそれであり、地域の特長と普遍性を考察する私達の側の態度でもある。	【講義計画】 <前期> 1. 「地域」社会・文化の捉え方の一般論 4月 2. 東南アジア地域の基層文化 5月・6月 3. 中国文明と東南アジア 6月・7月 <後期> 1. インド文明と東南アジア 9月・10月 2. イスラーム文明と東南アジア 10月・11月 3. 西欧近世・近代文明と東南アジア 11月・12月 4. 終焉前 東南アジア地域社会・文化 1月			
【成績評価の方法】 前期末に中間テスト、後期末に本テストをペーパー試験で行う。	【参考文献】 多数になるため特定できない。 講義中にその都度示す。			
【教科書】 村上公敏（著） 「東南アジア地域文化の捉え方」晃洋書房 1994年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会地理学		通 期	4 単位	野尻 直
【講義概要・学習目標】 20世紀の資本主義文明がもたらした都市社会、そこにはさまざまな人々が働き、居住し、生活する社会空間の多様なモザイク模様をみることができる。都市において、高級住宅地やスラム街・オフィス街は、どのようなプロセスを経て成立するのか。欧米都市において、人々はなぜ民族や社会階層によって住み分けてきたのか。このような差別や不平等な空間構造はいかにして作られるのか。平等ですべての人々が共生する都市社会とはどのようなものか。 20世紀に入ってから、社会学者や地理学者はこのような問題にさまざまな関心をよせてきた。この授業では、これらの多くの諸学説を展望し、整理するとともに、都市、さらにはその対比としての伝統的な村落社会の社会構造をどのように解明するかを考えることとしたい。	【講義計画】 1. 序論——地域・景観・空間—— 形態論と機能論的考察 2. 社会理論と地理学 3. 20世紀初めのシカゴ 大都市問題の発生と分析手法の成立 4. 大都市の古典的な社会空間構造モデル 5. シカゴ学派社会学の意義と限界 6. 集合的共同消費としての都市 7. 社会的稀少資源の配分としてみた都市 8. 建造環境としての都市 9. ギデンスの構造化理論と時間地理学 10. マルクス構造主義批判としての都市の人文主義的解読 11. 新しい産業社会 ポストフォーダイズムとジャスト イン タイム 12. 伝統的村落社会の基本空間 13. まとめ			
【成績評価の方法】 試験にするかレポートにするかは、授業の進度や履修状況をみて決定する。	【参考文献】 吉原直樹 『都市空間の社会理論』 東京大学出版会			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治事情研究		通 期	4 単位	松村昌廣
〔講義概要・学習目標〕 国際関係概説としての性格を持たせながら、常識ではなかなか考えられないような国際政治の実体を紹介する。公開されているが、なかなか普通には目にしないような材料を使って、学生諸君に分析的、実証的に思考する素養を身につけさせることを本講義の目的とする。 政治学や国際関係論などの理論的訓練を受けていないことを前提に講義を進めるので、社会学部以外の学生や、社会学部の国際社会コースを選択していない学生でも理解できるように十分配慮する。	〔講義計画〕 実際の国際関係の展開を踏まえながら、講義のテーマを選んでいく方針である。			
〔成績評価の方法〕 * 「A」を目指す学生： 講師の指示に従い研究レポートを作成する。 ** 「BC」を目指す学生： 出席率と期末試験を総合的に考えて評価する。試験課題としては「分析的な」（意味に注意！）感想文を考えている。	〔参考文献〕 レポートを書く学生は H・J・ウィアルダー「比較政治の新動向」（東信社） をかならず読むこと。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際社会特講（冷戦史の諸局面）		後 期	2 単位	鈴木博信
〔講義概要・学習目標〕 主題は「冷戦史：1945～1991」です。 ― 共通の敵ナチ・ドイツがたおれや、米ソ両超大国で宣戦布告もなくはじまり、半世紀近く張りあつたあと、一方ソ連が崩壊したという点、ワシントン・ニューヨークの《戦勝パレード》もなくあつた《COLD WAR》の時代をおよぶかに対し、「われわれは今どきの時代に生きているのか？」を洞察する必要がある。 このため、上の主題を包括的・組織的にとり扱う必要があり、以下の主要な事件のいくつかを焦点をあてる。次に、事件にかかわった当事者たちの証言や回想をできるだけ紹介する形で、話をすすめる予定。	〔講義計画〕 1. ヨーロッパにおける冷戦の起源：1945～49 2. 共産中国とアジアにおける冷戦：1945～53 3. 「平和共存」と核対決：1953～64 4. アメリカとヴェトナム：1945～75 5. 米ソ両超大国と共産中国：1949～80 6. 70年代米ソ間緊張緩和の進行と停滞 7. レーガン、ゴルバチョフ、そして冷戦の終り：1981～91 8. 回顧と展望			
〔成績評価の方法〕 ① 年度末試験（レポートにかきこくことあり） ② 必要に応じて課す1～2回の小レポート、を総合的に判定する。	〔参考文献〕 ○高坂正堯「現代の国際政治」講談社学術文庫 1989 ○田中 浩「戦後世界政治史」講談社学術文庫 1999 ○仲 晃「パックス・アメリカナと戦後一ページ・ナチス時代」筑波書店 1992 ○森本良男「冷戦一人と事件」サイマル出版会 1995 ○フローラル・リス、友田 錫 郎「ヨーロッパ」上2巻 河出書房新社 1990 ○アダム・ウラム、鈴木博信 訳「膨張と共存―ソヴェト外交史」全3巻 サイマル出版会 1974			
〔教科書〕 隋時、プリント教材（年表、地図、おもしろ文庫・資料の紹介など）を用意します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学		通 期	4 単位	捧 堅 二
【講義概要・学習目標】 この講義では現代政治について学びます。政治についての批判的な認識を生産するのに必要な情報や理論を提供しようと思います。今年は日本では衆議院議員総選挙、アメリカでは大統領選挙があります。これらを素材にして具体的な政治状況についてビールの立場から分析できる力を養いたいと思います。	【講義計画】 前期 1 政党政治 2 選挙制度 3 戦後日本の政党政治 4 総選挙 5 議会 後期 6 官僚制 7 アメリカの政治 8 大統領制と議院内閣制 7 民主主義 8 独裁			
【成績評価の方法】 出席・試験・レポート	【参考文献】 講義の際に示す			
【教科書】 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学		通 期	4 単位	井 上 勤
【講義概要・学習目標】 理論的なものは出されるだけなので、具体例から統計学の講義を進めて行く。多くの分野に応用されるのであるが、高校「数学Ⅰ」の知識があれば十分である。最も重要な事は学習意欲である。計算は電卓と使用するので必ず持参である。	【講義計画】 1. 記述統計(度数分布、代表値、散布度) 2. 確率分布(代表的なものとして二項分布、正規分布) 3. 推測統計(推定、検定)			
【成績評価の方法】 主資料は前期末(7月)後期末(1月)試験であるが、平常授業の出席状況、問題演習も加味する。	【参考文献】			
【教科書】 小寺平治著 新統計入門 裳華房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人 間 工 学 概 論		通 期	4 単位	三 戸 秀 樹
〔講義概要・学習目標〕 人間と機械のかかわりは古い、この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械の関わり方について言及する。近年の機械系、とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう、人間らしい“人間－機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的な“人間－機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心の視点に基づいた人間工学導入が緊要である。 単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら、「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心にした視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。	〔講義計画〕 <前 期> (1)はじめに 人間工学の定義、労働態様の変化、 (2)人間特性 生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、疲労、蓄積性疲労、 <後 期> (3)人間と機械 マン・マシン・インタフェース、頸肩腕障害、振動障害、VDT作業、テクノストレス、 (4)応用人間工学 立ち作業、障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、 (5)労働の最適化 労働の人間化、ゆとり、			
〔成績評価の方法〕 テストとレポートを予定	〔参考文献〕 労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社) 三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社) 千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)			
〔教科書〕 横溝克己・小松原明哲(共著)「エンジニアのための人間工学(改訂)」(日本出版サービス)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情 報 シ ス テ ム 概 論 (旧情報処理概論)	0 1	通 期	4 単位	小 池 俊 隆
〔講義概要・学習目標〕 企業活動にとって、コンピュータは無くしてはならない存在になっている。さらに、コンピュータはわれわれの日常生活の中にも入ってきた。家庭でも、インターネットなどを通じてさまざまな情報にアクセスすることができるようになり、それを使いこなすためには、いろいろなコンピュータ技術を利用することが必要になってきている。 このような状況の中で、社会人として活躍するためには、情報システムに関する広範な知識を常識として備えておく必要がある。 この講義では、上のような観点から、コンピュータの基礎、データの記憶と表現、ハードウェアとソフトウェア、データ処理とファイル、コンピュータと通信、経営と情報システムなど、コンピュータを利用していく上で最低限必要であると思われる事項について論じる。	〔講義計画〕 【前期】 コンピュータの歴史 情報の表現 ハードウェアの構成 コンピュータでの情報処理方式 コンピュータシステムの信頼性 コンピュータとソフトウェア 【後期】 ソフトウェア オペレーティングシステム ソフトウェアの開発 ファイルとデータベース コンピュータと通信 ネットワーク			
〔成績評価の方法〕 期末試験により評価する。	〔参考文献〕 宮崎正俊・白鳥則郎・川添良幸（共著）『コンピュータ概説〔第2版〕』（共立出版）			
〔教科書〕 井上義祐・小池俊隆他（共編著）『経営情報処理概論〔改訂版〕』（同文館）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	2 1	通 期	4 単位	宮本 孝二
〔講義概要・学習目標〕 1 社会学の歴史と内容の概略を示した上で、現代社会を分析するための基礎概念及び特質について理解させる。 2 社会生活の基本的な場（家族、地域、組織集団）の基本的特性と現代的变化について理解させる。 3 現代社会の変動に伴って生じる多様な社会問題の現状と対策について理解させる。	〔講義計画〕 ①社会学の歴史の概要と全体像 ②現代社会の分析；社会生活の基本的な場に見られる変動の諸トレンドと、それにかかわる諸要因、諸帰結の因果連関 ③変動の基本要因としての科学技術の諸相 ④科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑤情報科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑥高度産業社会における労働、職業および経営 ⑦専門職の職業的社会化と組織 ⑧家族の構造と形態の諸類型 ⑨家族の機能と逆機能（家族問題） ⑩家族の類型と機能をめぐる諸トレンド ⑪家族問題の解決と地域社会の役割 ⑫地域社会の構造と形態の諸類型 ⑬都市化と都市問題 ⑭過疎化と地域開発問題 ⑮地域社会を構成する集団・組織と地域問題 ⑯アイデンティティ問題 ⑰現代社会の不平等と差別 ⑱いじめ問題 ⑲消費生活と廃棄問題 ⑳政治的無関心と暴力 ㉑宗教問題 ㉒犯罪と非行 ㉓グローバルな問題（戦争、飢餓、環境など）			
〔成績評価の方法〕 後期テストの結果に、出席点、小テスト、レポートなどを加味して総合的に評価する。				
〔教科書〕 倉橋・丸山編『社会学の視点』ミネルヴァ書房	〔参考文献〕 その都度指示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	2 1	通 期	4 単位	清 水 由 文
〔講義概要・学習目標〕 われわれはテレビ、新聞などのマスメディアでの調査結果やグラフを見ることにより現代社会をより明確に理解することができることを知っている。そして社会調査ではそのような資料の調査方法およびその解釈方法を学習することを目的としている。さらにそのような調査結果をとおしてより精密な社会理論を構築することができる。したがって、本講義では社会調査の理論と技法を習得するというステップとそれを実際に調査票を作成して調査するという2つのステップを採用する。	〔講義計画〕 [前期] 1. 社会調査とはなにか 2. 社会調査の展開 3. 社会調査の方法 4. 調査票の作成 5. 調査票の集計 6. ライフ・ヒストリーの調査法 7. 社会調査テスト 8. 夏休みの課題（ライフ・ヒストリーレポート作成） [後期] 1. 実習のグループ分け 2. 意識調査の問題発見と仮説の設定 3. 調査票の作成および印刷 4. 調査の実施 5. 調査票の集計 6. 調査票の分析 7. 調査報告書の作成			
〔成績評価の方法〕 前期試験（20％）、レポート（20％）、出席（30％）、最終報告書（30％）のによる総合評価	〔参考文献〕			
〔教科書〕 授業時に指示する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	01 02 03 04 05 06 07	前期集中 前期集中 前期集中 前期集中 前期集中 前期集中 前期集中	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	石田 易司 岡井 哲明 坂本 光哉 瀧澤 仁唱 松端 克文 松本 眞一 安原 佳子
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の現場実習を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。	[講義計画] 1 実習オリエンテーション 2 視聴覚学習 3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話 4 現場体験学習 5 見学実習 6 見学実習記録に基づくレポートの作成 7 全体総括			
[成績評価の方法] ・出席重視 ・レポート 等で総合的評価	[参考文献]			
[教科書] 授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉原論		通 期	4 単位	松本 眞一
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。	[講義計画] 1 現代社会と社会福祉 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 社会福祉対象の把握方法 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理 1) 専門性と専門職の内容 2) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方 3) 社会福祉援助活動と倫理 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係 2) 社会福祉の実施体制 3) 社会福祉の財政と費用負担 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向			
[成績評価の方法] 前期はレポート提出を課し、後期は定期試験を実施して、その総合点により成績評価を行う。また、出欠による評価も加味される。	[参考文献] 福祉士養成講座編集委員会（編） 『社会福祉士養成講座 第1巻 社会福祉原論』 中央法規出版			
[教科書] 松本眞一 編著 『現代社会福祉論』 ミネルヴァ書房（1998年刊）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術総論		後期集中	4 単位	小山 隆
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉サービスと援助活動の関係について理解させる。 2 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程の体系とそこにおける共通課題について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 4 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解させる。 5 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。	[講義計画] 1 社会福祉サービスと援助活動の関係 2 福祉専門職と専門援助技術の関係 3 専門援助技術の歴史的展開 4 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題 1) 社会福祉援助活動の目的と価値 2) 社会福祉援助活動の原則 3) 社会福祉援助活動の諸過程 ① 受理面接（インテーク）と社会診断 ② 社会治療 ③ 終結 4) 社会福祉援助活動の共通課題 ① 契約・介入・課題の意義と方法 ② 面接の意義と方法 ③ 記録の意義と方法 ④ 評価の意義と方法 ⑤ スーパービジョンの意義と方法 ⑥ ケースマネージメントの意義と方法 5 専門援助技術の体系及び内容 1) 直接援助技術 ① 個別援助技術（ケースワーク） ② 集団援助技術（グループワーク） 2) 間接援助技術 ① 地域援助技術（コミュニティワーク） ② 社会福祉調査法 ③ 社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション） 3) その他の関連専門援助技術 6 社会福祉援助活動の場と専門援助技術 7 専門援助技術と倫理 8 専門援助技術の統合化とチームによる対応 9 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向			
[成績評価の方法] ①出席点 ②レポート点 ③年度末試験	[参考文献] 適宜紹介する。			
[教科書] 適宜紹介する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論ⅠA		通 期	4 単位	小西 加保留
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。 2 個別援助技術（ケースワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等にどのように適用され問題解決へと導くのか、介護と関係づけて事例を通して理解させる。	[講義計画] 1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけとその内容・性格について 2 個別援助技術（ケースワーク）の理論と技法・技術 ① 直接援助技術と個別援助技術 ② 個別援助技術の意義と特徴 ③ 個別援助技術の歴史 ④ 個別援助技術の構造と構成要素 ⑤ 個別援助技術の機能 ⑥ 個別援助技術の援助関係と原則 ⑦ 個別援助技術の展開過程と技術 ・ 受理面接（インテーク）と社会診断 ・ 社会治療 ・ 終結 ⑧ 個別援助技術の新動向（統合論など） ⑨ 面接の意義と技法・技術 ⑩ 記録の意義と方法 ⑪ 効果測定の意義と技法・技術 ⑫ 個別援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性 ⑬ スーパービジョンの意義と方法			
[成績評価の方法] レポート提出、出席状況、学年末試験によって評価する。	[参考文献] バイステック（著）『ケースワークの原則』（誠信書房）			
[教科書] 大塚達雄、井垣章二、沢田健二郎、山辺朗子（編著） 『ソーシャル・ケースワーク論 社会福祉実践の基礎』（ミネルヴァ書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論ⅠB		通 期	4 単位	石田 易司
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。 2 集団援助技術（グループワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等の問題解決にどのように適用され、問題解決へと導くのか、介護との関係で事例を通して理解させる。	[講義計画] 1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけと内容と性格 2 集団援助技術（グループワーク）の理論と技法・技術 ①直接援助技術と集団援助技術 ②集団援助技術の意義と特徴 ③集団援助技術の歴史 ④集団援助技術の構造と構成要素 ⑤集団援助技術の機能 ⑥集団援助技術の援助関係と原則 ⑦集団援助技術の展開過程と技術 ・準備期 ・開始期 ・作業期 ・終結期 ⑧集団援助技術の各種モデル ⑨観察の意義とその技法・技術 ⑩記録の意義とその方法 ⑪効果測定の意義とその技法・技術 ⑫集団援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性 ⑬スーパービジョンの意義とその方法			
[成績評価の方法] 毎日の授業のレポートと期末のレポート	[参考文献] 『いきいき高齢者キャンプ』（朱鷺書房） 『痴呆性老人とキャンプ』（朱鷺書房） 『新しいグループワーク』（YMCA同盟） 『ザ・キャンプ』（創元社）			
[教科書] 『さかさまの星座』（オモドック） 『CAMPING FOR ALL』（エルビス社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論Ⅱ		前期集中	4 単位	上野谷 加代子 加納 恵子
[講義概要・学習目標] 1 間接援助技術の内容と性格について理解させる。 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 3 社会福祉調査法の理論と技術について、老人や障害者を対象とする具体的調査に基づき理解させる。 4 社会福祉の運営と計画の技術について理解させる。	[講義計画] 1 間接援助技術の内容と性格 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域社会の組織化 ①地域組織化 ②福祉組織化 3) 地域援助技術 ①地域社会の診断方法 ②集団及び組織の診断方法 ③住民組織の方法 ④社会資源の開発と活用方法 ⑤集団及び組織・機関の調整方法 ⑥情報の収集・伝達及び活用方法 ⑦記録と評価の方法とその活用方法 ⑧地域福祉計画の策定方法 3 社会福祉調査法の理論と技術 1) 社会福祉調査の基本的性格と類型 ①基本的性格 ②諸類型 2) 統計調査法における調査技術 ①特質と意義 ②標本抽出の理論と技法 ③調査方法・手順・諸過程及び技術 3) 事例調査における調査技術 ①特質と意義 ②調査方法・手順・諸過程及び技術			
[成績評価の方法] 期末課題の評価及び平常成績	[参考文献]			
[教科書] 海声社『コミュニティ・ワーク』高森 敏久、高田 真治、加納 恵子、定森 丈弘（1989年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域福祉論		通 期	4 単位	上野谷 加代子
[講義概要・学習目標] 1 地域福祉の理念と内容について理解させる。 2 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる。 3 地域福祉の現状について理解させる。	[講義計画] 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉 2 現代社会と地域福祉 1) 地域福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 地域福祉の構成 4 地域福祉の推進方法 1) 推進の基本的な考え方 2) 地域福祉計画の意義と内容 3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義 4) サービス提供組織とその運営方法 5) 人材の構成及びその動員方法 6) 財源の構成とその調達の方法 7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連帯のあり方 5 地域福祉の現状			
[成績評価の方法] 授業時の小テスト 学年末テスト、レポート等により総合的評価	[参考文献] 『地域福祉論』（福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規） 他は授業時に提示する。			
[教科書] 『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書 第10巻 全国社会福祉協議会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ケアマネジメント		後 期	2 単位	上野谷 加代子
[講義概要・学習目標] 21世紀の社会福祉実践は、①サービス利用者を中心にすえた ②地域生活自立を ③保健・医療・住宅・教育など他分野との連携のもとに④公（官）・民間・市民がパートナーシップをもって進めていくことになるが、その際だが、どのような方法で実現していくかが最大の関心事であり、重要な課題である。 本講義は介護保険の動向をふまつつも、限定されたケアマネジメント論ではなく、その理念と実際について講義をおこなう。	[講義計画] 1. ケアマネジメントの理解を深める (1) 概念 (2) 方法 (3) 介護保険ケアマネジメント 2. 諸外国（イギリス・オーストラリア）でのケアマネジメントの実際 3. 事例研究			
[成績評価の方法] ・出席状況 ・レポートなどの提出	[参考文献] 授業時、指示する。			
[教科書] 授業時、指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際社会福祉論		9・12月集中	4 単位	岡 田 徹
【講義概要・学習目標】 ねらい：地球時代（global century）と呼ばれる21世紀を間近にして生きる私たちにとってキーワードとなる「社会福祉」と「国際化」を、社会福祉学のなかで最も創発的な研究領域である「国際社会福祉論」に着目して考える。また社会福祉を国際的な視野のもとで捉えることをとおして、地球社会の一員であるという自覚や、異なる文化や価値観に対する理解や尊敬の念を養う。受講生には、国際社会福祉の経験や思想、知見や視点を、自分の専門研究に照らして吟味し、また自分の生活や人生の問題として受け止めていただきたい。 進め方：講義形式でおこなうが、ビデオを観たり、討論をおこなったりする予定である。また授業時に小レポートを作成し提出してもらう。	【講義計画】 (1) オリエンテーション（担当者自己紹介、授業日程の説明等） (2) なぜ今「国際社会福祉」か (3) 国際社会福祉とは何か（定義） (4) 国際社会福祉の歴史的生成展開過程（1920年代～） (5) 国際社会福祉の存在根拠（①脱主権国家化 ②グローバルな市民社会の形成 ③社会福祉のグローバル・ミニマムの制定） (6) 国際社会福祉の問題領域（貧困、南北問題、戦争難民、移民・外国人労働者問題、人権侵害・差別、環境破壊） (7) 国際社会福祉の担い手（国際政府間機関、国際市民組織、国際社会福祉専門職能団体） (8) 国際社会福祉の諸課題（①研究課題／社会開発型ソーシャルワークの構築 ②実践課題／内なる国際化の問題 ③教育課題／国際ソーシャルワーカーや国際ボランティアの養成） (9) 市民社会の成熟にむけて／政治（国家・行政）・経済（市場・企業）・市民社会（生活文化）のセクター・バランス (10) 世界の社会福祉			
【成績評価の方法】 授業時の小レポートおよび試験	【参考文献】 岡田徹他編著『世界の社会福祉』（学苑社 3,400円） 松本真一著『現代社会福祉論』（ミネルヴァ書房 2,800円） 授業時に必要な資料をプリント配布する。 授業時に適宜紹介する。			
【教科書】 仲村優一編『国際社会福祉』（『世界の社会福祉』第12巻）旬報社、2000年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医学一般		通 期	4 単位	郭 麗月
【講義概要・学習目標】 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要を理解させる。 6 保健医療対策の概要を理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。 8 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。	【講義計画】 1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会と疾病 1) がん、生活習慣病 2) 各種感染症 3) 神経・精神疾患 4) 先天性疾患 5) 難病 6) その他 5 公衆衛生の現状 1) 人口動態 2) 疾病と受療状況 3) 医療関係者 4) 医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方			
【成績評価の方法】 レポート、定期試験の成績で評価する。	【参考文献】 適時紹介する。			
【教科書】 福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉士養成講座14「医学一般」（中央法規）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神医学		通 期	4 単位	岡田 章
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。 3 精神医学の概念について理解させる。 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。 5 代表的な精神障害について理解させる。 6 治療の概要について理解させる。 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。		1 精神医学、精神医療の歴史 2 脳および神経の生理・解剖 3 精神医学の概念 1) 精神医学の概念 2) 精神障害の成因と分類 4 診断法 1) 診断の手順と方法 2) 精神症状と状態像 3) 心理検査と身体的検査 5 代表的な精神障害 1) 症状性を含む器質性精神障害 (老人性痴呆を含む) 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害 4) 気分(感情)障害 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 7) 成人の人格および行動の障害 8) 精神遅滞 9) 心理的発達の障害 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害 11) 神経系の疾患(てんかんを含む) 6 治療法 1) 身体的療法 ①薬物療法とその副作用 ②電気ショック療法 2) 精神療法 3) 環境・社会療法 4) 精神科リハビリテーション 7 病院精神医療および地域精神医療 1) 病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む) 2) 精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む) 3) 地域精神医療		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
前期レポート、後期試験を予定		適時提示する予定		
〔教科書〕				
精神保健福祉士養成セミナー 第1巻 『精神医学』 (へるす出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ボランティア論		後 期	2 単位	岡 本 栄 一
〔講義概要・学習目標〕 【講義概要・学習目標】 近年、ボランティア活動が盛んになってきたといわれるそれは、社会福祉の領域だけでなく国際、環境といった広がりであるそこで、理念や原理を押さえ、また具体的な展開についても講ずる ●概要としては下記<講義計画>にそって講義する ●学習目標としては、次の3つ 1. ボランティア活動に関する基本的な原理と知識を学ぶ 2. 「生き方」としてのボランティア活動を学ぶ 3. 社会福祉等の専門職から見た「仕事」としてのボランティア活動を学ぶ		〔講義計画〕 【講義計画】 講義計画は、 1. はばテキストにそって進めるが、部分的に用いる 2. 大きな流れとして下記の4つの部門に分ける ①ボランティアに関する基礎的な問題(第0の「ボランティア」報告プリントで) ②国内でのボランティア活動 ③国際的なボランティア活動 ④その他、ボランティアコーディネーターの問題など 3. 可能ならば2回程度、V・センター等の「現場見学」等を入れたい		
〔成績評価の方法〕 【成績評価の方法】 評価は下記の方法で行う 1. 期末試験 2. 出席状況		〔参考文献〕 【参考文献】 講義の際に、その都度示す		
〔教科書〕 【教科書】 ●内海成治他編『ボランティア学を学ぶ人のために』 ●世界思想社 ●定価：(本体) 2, 200 円 + 税				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	0 1	通 期	4 単位	上野谷 加代子
〔講義概要・学習目標〕 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	〔講義計画〕 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
〔成績評価の方法〕 ①出席状況及びワークショップへの参加度 ②期末テスト により総合的に採点。	〔参考文献〕 授業時提示する。			
〔教科書〕 授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	0 2	通 期	4 単位	大西 雅裕
〔講義概要・学習目標〕 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	〔講義計画〕 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術とその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
〔成績評価の方法〕 ・出席、レポートによる総合評価。 ・2／3以上の出席がないと評価対象から除外するので注意すること。	〔参考文献〕 適宜紹介する。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	03	通 期	4単位	小西 加保留
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席、課題への参加状況、レポート等によって、総合的に評価する。	[参考文献] D. エバンズ、M. ハーン、M. ウルマン、A. アイビー（著） 『面接のプログラム学習』（相川書房） アレン・E・アイビー（著） 『マイクロカウンセリング』（川島書店）			
[教科書] 講義時に提示する。（プリント資料）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	04 05	通 期	4単位	竹中 麻由美
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 平常レポート、試験	[参考文献] 『ケースワークの原則』			
[教科書] バイステック『ケースワークの原則』（誠信書房） 授業中指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	06 07	通 期	4単位	津田 耕一
〔講義概要・学習目標〕 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	〔講義計画〕 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
〔成績評価の方法〕 出席率、授業への積極的参加度（発表、ディスカッションなど）、小テスト、レポート提出について評価を行い、総合的にまとめたものを成績評価とする。	〔参考文献〕 E. P. バイスティック著、尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』（誠信書房） D. エバンズほか著、杉本照子監訳『面接のプログラム学習』（相川書房）			
〔教科書〕 相澤謙治、津田耕一編著『事例を通して学ぶ社会福祉援助』（相川書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	08	通 期	4単位	藤田 譲
〔講義概要・学習目標〕 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	〔講義計画〕 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
〔成績評価の方法〕 出席状況＝50％ 課題レポート（数回）・小テスト（5回程度）＝50％ 上記の比重にて評価を行う	〔参考文献〕 適宜紹介する。			
〔教科書〕 平山尚・平山佳須美・黒木保博・宮岡京子 『社会福祉実践の新潮流』（ミネルヴァ書房） 他の教材として、適宜印刷物を配付する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	09	通 期	4単位	山本 克彦
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。	[講義計画] 具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。 さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 演習形態の授業であるため、出席を最重視する。他にはレポート（年2回）、演習における態度・姿勢により総合評価をする。	[参考文献] 津村俊充、山口真人（編）『人間関係トレーニング-私を育てる教育への人間学的アプローチ』（ナカニシヤ出版） 津村俊充、星野欣生『Creative Human Relations Vol I～VIII』（プレスタイム） 平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子（共著）『社会福祉実践の新潮流-エコロジカル・システム・アプローチ』（ミネルヴァ書房） 他 適宜紹介			
[教科書] 演習ごとに資料、ワークシート等を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	01 02 03 04 05 06 07 08	通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	淡野 勝也 北野 誠一 阪野 学 坂本 光哉 坪山 孝 松端 克文 安原 佳子 西浦 太一
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の現場実習を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。	[講義計画] 1 配属実習オリエンテーション 2 専門援助技術実技指導 3 面接実技指導 4 記録実技指導 5 評価・効果測定実技指導 6 配属実習 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 8 レポートに基づく個別指導 9 全体総括会			
[成績評価の方法] 全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。	[参考文献]			
[教科書] 授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉発達史 (旧社会福祉発達史Ⅰ・Ⅱ)		9・12月集中	4 単位	愼 英 弘
【講義概要・学習目標】 本講義では、イギリスと日本の社会福祉発達史を研究する。特に貧民問題に焦点をあて、どのような対策がとられていたかを明らかにし、現在の社会福祉が形成される過程を研究する。 この講義を通して、「権利」としての社会福祉が、どのように形成されてきたかを理解させ、今日の社会福祉が真に利用者のニーズを充足させるにはどのようなあり方にすべきかを考えることと、その力を付けさせることを目標にしている。	【講義計画】 1. 社会福祉の源流 2. 黒死病と人口問題 3. 労働者令の発布 4. 救貧法の嚆矢 5. 封建家臣団の没落 6. 田舎運動と農民の土地から追放 7. 修道院の解散と貧民の激増 8. 1504年の救貧法 9. 1531年の救貧法 10. 1546年の救貧法 11. 救貧法の根本 12. 1597年の貧民救済法 13. 旧救貧法 14. チャールズ法と貧民対策 15. ヘルバート法と貧民対策 16. スピーナムランド制度 17. エリカスの貧民救済論 18. 新救貧法の成立 19. ラウンターの社会調査 20. 少数派報告書とベリッジ報告書 21. 恤救規則制定以前の貧民対策 22. 恤救規則の制定をめぐっての論議 23. 恤救規則に基づく行政実例 24. 恤救規則改正の動き 25. 救貧法の制定とその内容 26. 方面委員制度の創設 27. 方面委員の活動 28. 方面委員と戦争協力 29. 救護法から生活保護法へ			
【成績評価の方法】 筆記試験の結果に基づいて評価する。	【参考文献】 講義時に随時紹介する。			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医療保健福祉論 (旧医療福祉論)		通 期	4 単位	小 西 加保留
【講義概要・学習目標】 1 医療保健福祉の理念と意義を理解させる。 2 医療保健福祉施策の概要について理解させる。 3 医療保健福祉の対象者の人権について理解させる。 4 医療保健福祉の対象と機能を理解させる。 5 医療保健福祉の相談援助活動の内容を理解させる。	【講義計画】 1. 医療保健福祉の理念と意義 1) 医療の変遷と社会福祉 2) 医療モデルと福祉モデル 3) 生命倫理と福祉 2. 医療の流れとソーシャルワーク 3. 保健医療分野におけるソーシャルワークの歴史 4. 医療施策の変遷と医療保健福祉 5. 医療保健福祉の相談援助活動 1) 業務指針 (1) 経済的問題への援助 (2) 療養中の心理社会的問題への援助 (3) 受診・受療援助 (4) 退院援助 (5) 地域活動 2) 相談援助活動の実態 (1) ライフサイクルと相談援助 (2) 対象別援助 6. チーム医療 7. 医療保障制度の概要			
【成績評価の方法】 レポート提出、実務状況、学年末試験により評価する。	【参考文献】 保健医療ソーシャルワーク研究会「保健医療ソーシャルワーク・ハンドブック」 中央法規、1990 保健医療専門ソーシャルワーク研究会「保健医療専門ソーシャルワーク」 中央法規、1996 折田照子、森野郁子監修「ソーシャルワーク業務マニュアル」 14 島書店、1997			
【教科書】 講義時に提示する（プリント資料）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉施設運営論		後 期	2 単位	坪 山 孝
【講義概要・学習目標】 今日の社会福祉施策や援助活動は、ノーマリゼーションおよび在宅生活の継続性等を目標にしている。そのことは社会福祉施設にも地域化や多機能化の課題を与え、社会福祉施設のあり方について大きな変化をもたらしたが、現在でも施設の重要な役割は利用者に対する援助にある。施設を利用する個人及び家族の自立を支える資源（社会的装置）という視点から社会福祉施設の有用性を考え、そのために公的責任の果たす役割について研究する。 また、施設の経営主体の形態やサービス・人事・財務等の諸管理について講義をし、総合的に施設の運営管理を学習する契機とするが、最近では施設も運営から経営が求められるようになっている。その視点についても考察する	【講義計画】 1 社会福祉施設の沿革 2 社会福祉施設の体系と制度 3 社会福祉施設の経営と社会福祉法人の制度 4 利用者のニーズとサービス 5 社会福祉施設と地域社会 6 社会福祉施設と業務運営 7 社会福祉施設の従事者の動向 8 社会福祉施設の建物、設備			
【成績評価の方法】 学期末試験の結果による	【参考文献】 随時、授業中に紹介する			
【教科書】 新・社会福祉学習双書 編集委員会編 「社会福祉施設運営論」 全国社会福祉協議会				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名																														
社会福祉法制論 (旧社会福祉法制) (旧社会福祉の発達と法制)		通 期	4 単位	瀧 澤 仁 唱																														
〔講義概要・学習目標〕 1 社会福祉（狭義）の法制度全体の理解 2 社会福祉の権利と日本国憲法の関連の理解 3 社会福祉に関連する諸法規の理解	〔講義計画〕 <table><tr><td>1 ガイダンス</td><td>16 障害者福祉法(5)</td></tr><tr><td>2 社会福祉の意義</td><td>17 障害者福祉法(6)</td></tr><tr><td>3 社会福祉法の発生</td><td>18 障害者福祉法(7)</td></tr><tr><td>4 憲法と社会福祉法</td><td>19 老人福祉法(1)</td></tr><tr><td>5 社会保障法の中の社会福祉法の位置</td><td>20 老人福祉法(2)</td></tr><tr><td>6 社会福祉事業法(1)</td><td>21 老人福祉法(3)</td></tr><tr><td>7 社会福祉事業法(2)</td><td>22 老人福祉法(4)</td></tr><tr><td>8 社会福祉事業法(3)</td><td>23 児童および母子福祉関係法(1)</td></tr><tr><td>9 社会福祉事業法(4)</td><td>24 児童および母子福祉関係法(2)</td></tr><tr><td>10 社会福祉事業法(5)</td><td>25 児童および母子福祉関係法(3)</td></tr><tr><td>11 社会福祉事業法(6)</td><td>26 児童および母子福祉関係法(4)</td></tr><tr><td>12 障害者福祉法(1)</td><td></td></tr><tr><td>13 障害者福祉法(2)</td><td>(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります)</td></tr><tr><td>14 障害者福祉法(3)</td><td></td></tr><tr><td>15 障害者福祉法(4)</td><td></td></tr></table>				1 ガイダンス	16 障害者福祉法(5)	2 社会福祉の意義	17 障害者福祉法(6)	3 社会福祉法の発生	18 障害者福祉法(7)	4 憲法と社会福祉法	19 老人福祉法(1)	5 社会保障法の中の社会福祉法の位置	20 老人福祉法(2)	6 社会福祉事業法(1)	21 老人福祉法(3)	7 社会福祉事業法(2)	22 老人福祉法(4)	8 社会福祉事業法(3)	23 児童および母子福祉関係法(1)	9 社会福祉事業法(4)	24 児童および母子福祉関係法(2)	10 社会福祉事業法(5)	25 児童および母子福祉関係法(3)	11 社会福祉事業法(6)	26 児童および母子福祉関係法(4)	12 障害者福祉法(1)		13 障害者福祉法(2)	(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります)	14 障害者福祉法(3)		15 障害者福祉法(4)	
1 ガイダンス	16 障害者福祉法(5)																																	
2 社会福祉の意義	17 障害者福祉法(6)																																	
3 社会福祉法の発生	18 障害者福祉法(7)																																	
4 憲法と社会福祉法	19 老人福祉法(1)																																	
5 社会保障法の中の社会福祉法の位置	20 老人福祉法(2)																																	
6 社会福祉事業法(1)	21 老人福祉法(3)																																	
7 社会福祉事業法(2)	22 老人福祉法(4)																																	
8 社会福祉事業法(3)	23 児童および母子福祉関係法(1)																																	
9 社会福祉事業法(4)	24 児童および母子福祉関係法(2)																																	
10 社会福祉事業法(5)	25 児童および母子福祉関係法(3)																																	
11 社会福祉事業法(6)	26 児童および母子福祉関係法(4)																																	
12 障害者福祉法(1)																																		
13 障害者福祉法(2)	(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります)																																	
14 障害者福祉法(3)																																		
15 障害者福祉法(4)																																		
〔成績評価の方法〕 論述式筆記試験	〔参考文献〕 『社会福祉六法 2000(平成12)年版』(新日本法規)																																	
〔教科書〕 桑原 洋子『社会福祉法制要説 第3版』有斐閣																																		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会保障論		通 期	4 単位	里見 賢治
〔講義概要・学習目標〕 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。 2 社会保障制度の体系について理解させる。 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。 4 我が国の年金保険について熟知させる。 5 我が国の医療保険について熟知させる。 6 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。 7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。	〔講義計画〕 1 現代社会と社会保障 1) 社会保障理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 社会保障制度の体系 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要 1) 年金保険 2) 医療保険 3) 介護保険 4) 労災保険 5) 失業保険（雇用保険） 6) 家族手当（児童手当） 7) 公的扶助 8) その他関連制度 4 我が国の年金保険制度とその具体的内容 1) 国民年金 2) 厚生年金 3) 各種共済組合の年金 5 我が国の医療保険制度とその具体的内容 1) 国民健康保険 2) 健康保険 3) 各種共済組合の医療保険 6 公的施策と民間保険 1) 公的施策との関係 2) 現状 7 社会保障の実施体制及び専門職			
〔成績評価の方法〕 定期試験及び平常の成績等で総合的に評価する。	〔参考文献〕 里見賢治（著）『日本の社会保障をどう読むか』（労働旬報社、1990年） 里見賢治、二木立、伊東敬文（共著）『公的介護保険に異議あり』（ミネルヴァ書房、初版1996年、増補版1997年） 里見賢治ほか（共著）『福祉財政論』（ミネルヴァ書房、1989年） 一圓光弥（著）『自ら築く福祉』（大蔵省印刷局、1993年） その他、適宜紹介する。			
〔教科書〕 レジュメを配布する。 教科書を使用するかどうかは検討中。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉行財政論		前期	2 単位	武田 宏
〔講義概要・学習目標〕 急速な少子化・高齢化と家族・地域生活様式の変化、就労構造の変化（特に女性の就労形態・意識の変化）は、広義の社会福祉サービスへのニーズを急速に増大させています。日本政府の高齢者保健福祉推進10カ年戦略（1990～1999年度）、地方老人保健福祉計画の策定、障害者プランなどは、それらへの政策的対応でした。しかし、その進捗状況をみるならば、地域・自治体レベルで住民の福祉ニーズが満たされているとはいえません。 この講義では、公的社会福祉サービス（民間の社会福祉法人・社会福祉協議会等に委託されている事業も含む）の経済的基盤である、社会福祉行財政制度について、国・地方の関係（税・財源と歳出）、地方自治体と民間団体の関係（施設・在宅福祉サービス）、国民の福祉サービスへの権利と利用者負担（費用徴収制度）などについて述べてゆきます。講義方法は、テキストの内容をもとに講義する予定です。 なお、保育制度への契約方式導入、介護保険制度導入社会事業法改正など制度変更が現在進行形でおこなわれています。そのため、新聞記事等をもちい、そうした事例の紹介・解説などを含めて、講義をすすめるつもりです。	〔講義計画〕 1. オリエンテーション：日本の行財政構造と社会福祉活動の位置 2. 地方財政における「民生費」の位置と推移 3. 社会福祉施設の経営と行財政制度（措置費制度） 4. 在宅福祉サービスと行財政制度 5. 社会福祉事業の民間委託（民営化） 6. 社会福祉の費用徴収（利用者負担） 7. 契約システム（介護保険制度・保育制度）の導入と社会福祉行財政 8. 社会福祉行財政の国際比較 9. まとめ			
〔成績評価の方法〕 主として試験によります。なお、試験の前には、問題の例示などをおこないます。	〔参考文献〕 坂寄俊雄『図説日本の社会保障』法律文化社、1996年。 右田紀久恵等『福祉財政論』ミネルヴァ書房、1989年 成瀬龍夫等『福祉改革と福祉補助金』ミネルヴァ書房、1989年。 竹中哲夫等編『新版現代の社会福祉』みらい、1998年。			
〔教科書〕 武田 宏『高齢者福祉の財政課題：分権型福祉の財源を展望する』あけび書房、1995年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉計画論		9・12月集中	4 単位	松 原 一 郎
[講義概要・学習目標] 社会福祉施策を具体的・合理的に進めていくための方法として社会福祉計画がある。それは、社会変動や公的セクターの働きや政策と不可分の関係にある。 社会福祉計画の基礎概念や類型を学びながら、個別分野の計画 ― 介護保険、障害者プラン、エンゼルプラン ― についても学生諸君の発表にあわせて論及していく。	[講義計画] レクチャーとディスカッションで2コマを形成する。 前半 ①社会変動と社会福祉制度 ②社会福祉計画とは何か：基礎概念、構成要素 ③公的計画と民間計画 後半 ④計画の個別具体的事例：高齢者、障害者、児童、地域福祉等 ⑤まとめ：ニーズ、計画と参画、評価			
[成績評価の方法] 平常試験による。（レポート・発表を含む）	[参考文献] 『社会福祉計画』 定藤・坂田・小林共編、有斐閣、1996 『厚生白書』			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
老人福祉論		通 期	4 単位	坪山 孝
[講義概要・学習目標] 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。 3 老人の福祉需要の把握方法について理解させる。 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解させる。 5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。 6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。 7 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解させる。 8 老人に対する相談援助活動について理解させる。	[講義計画] 1 高齢社会と老人 1) 老化と老人 2) 家族と老人 3) 社会と老人 2 現代社会と老人福祉 1) 老人福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容 1) 把握方法 2) 具体的内容 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容 1) 老人福祉法 2) 介護保険法 3) 老人保健法及びその他の関連法規 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状 1) 在宅サービス 2) 施設サービス 6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状 7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具 1) 地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応） 2) 福祉用具 9 老人に対する相談援助活動 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績によって評価する。	[参考文献] 『厚生白書』の他に、随時、講義中に紹介する。			
[教科書] 小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編集『高齢者福祉』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童福祉論		通 期	4 単位	松本 眞一
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。 3 児童の福祉需要の把握方法について理解させる。 4 児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。 5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。 6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。 7 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。 8 児童に対する相談援助活動について理解させる。	[講義計画] 1 現代社会と児童 1) 人間の成長・発達と児童 2) 家族と児童 3) 社会と児童 2 現代社会と児童福祉 1) 児童福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 4) 児童の権利及び児童虐待 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容 1) 把握方法 2) 具体的内容 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容 1) 児童福祉法 2) 母子及び寡婦福祉法 3) 母子保健法 4) その他関連法規 5 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状 1) 在宅サービス 2) 施設サービス 6 民間サービスの役割と意義及びその現状 7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具 1) 地域及び住環境の整備 2) 福祉用具 8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 9 児童に対する相談援助活動 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例			
[成績評価の方法] 前期はレポート提出を課し、後期は定期試験を実施して、その総合点により成績評価を行う。また、出欠による評価も加味される。				
[教科書] 松本眞一 著 『児童福祉論』 相川書房（1995年刊）	[参考文献] 福祉士養成講座編集委員会（編） 『社会福祉士養成講座 第4巻 児童福祉論』（中央法規出版）			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
障害者福祉論		通 期	4 単位	北野 誠一
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における障害の理念と障害者の実態を理解させるとともに、障害者福祉の社会的背景について理解させる。 2 現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解させる。 3 障害者の福祉需要の把握方法について理解させる。 4 障害者福祉に関する法の法とサービスの体系について理解させる。 5 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解させる。 6 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。 7 障害者に対する相談援助活動について理解させる。	[講義計画] 1 現代社会と障害及び障害者 1) 障害の概念 2) 家族と障害者 3) 社会と障害者 2 現代社会と障害者福祉 1) 障害者福祉理念の発達 ①リハビリテーション ②ノーマライゼーション 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 障害者の福祉需要の把握方法とその具体的内容 1) 把握方法 2) 具体的内容 4 障害者福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容 1) 障害者基本法とリハビリテーション体系 2) 障害者別福祉サービスの体系と内容 ①障害児 ②身体障害者 ③知的障害者 ④精神障害者 3) 関連法による施策 ①保健・医療 ②教育 ③雇用・就労 ④年金、手当及び経済的負担の軽減 ⑤住宅・生活環境（バリアフリーへの対応） 5 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状 1) 民間活動 2) 民間サービス 6 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 7 障害者に対する相談援助活動 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例			
[成績評価の方法] レポート及び試験				
[教科書] 定藤、佐藤、北野 編著『現代の障害者福祉』（有斐閣）	[参考文献] 定藤、岡本、北野 編著『自立生活の思想と展望』（ミネルヴァ書房） 定藤、中西、北野 編著『障害者の自立生活センター』（朝日新聞厚生文化事業団） 総理府 編『障害者白書』（平成11年版）			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公的扶助論		通 期	4 単位	瀧澤 仁唱
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。	[講義計画] 1 現代社会と公的扶助 1) 公的扶助理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 低所得対策の概要 3 生活保護制度のしくみ 1) 目的 2) 基本原理 3) 保護の原理 4) 保護の種類と内容 5) 保護の機関と実施体制及び財源 6) 保護施設の種類 7) 被保護者の権利及び義務 4 生活保護の最近の動向 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方 1) 組織・専門職 2) 連帯のあり方			
[成績評価の方法] 論述式筆記試験	[参考文献] 『社会福祉六法 2000（平成12）年版』（新日本法規）			
[教科書] 古賀 昭典 編 『新版 現代公的扶助法論』（法律文化社） 介護保険法施行の関係で教科書が変わる場合がありますので、掲示にご注意ください。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
家族福祉論		通 期	4 単位	中 村 永 司
[講義概要・学習目標] ①家族福祉とはどのような概念か ②現代家族をとりまく社会的背景 ③現代家族の構造と機能 ④現代家族の問題と病理 ⑤家族福祉の焦点 ⑥家族支援のソーシャルワーク	[講義計画] 家族福祉問題の分析を行い、家族福祉の課題や方法を理論的、実証的に事例をもとに展開していく			
[成績評価の方法] 期末試験	[参考文献]			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
リハビリテーション論		後 期	2 単位	奥 田 邦 晴
【講義概要・学習目標】 障害者が豊かな自立生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への連携が非常に重要であり、そのリハビリテーションは、適切な時期および必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健・医療・福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。 なお、リハビリテーションチームの一員として、障害についての理解を深めることは非常に大切である。よって、リハビリテーションが大きな意義を持つ代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。	【講義計画】 1.リハビリテーション総論 2.障害と評価 3.各種専門職種 4.疾患・病態からみたリハビリテーションの実践 5.補装具 6.リハビリテーション工学 7.障害者のスポーツ 8.地域ケア 9.その他			
【成績評価の方法】 筆記試験	【参考文献】 「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会 中央法規 「リハビリテーションの臨床とケア」 土肥信之 ライフ・サイエンス・センター 「リハビリテーションの理論と実践」 上田 敏 ミネルヴァ書房 「リハビリテーションを考える」 上田 敏 障害者問題双書 他			
【教科書】 ナン				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人格発達論		後期集中	4 単位	岡 井 哲 明
【講義概要・学習目標】 時代の変化は目まぐるしく、次々と新しい考えや価値観が生み出されていき、何が本当なのかさえつかみかねるところがある。柔軟な社会といえそうだが、逆に視界は不透明な時代である。 それ故、個々の悩みも悩みとしては捉えられず、悩んでいることさえ気づかれないほど、軽めに見える。 本講義では、パーソナリティ理論の中でも、人間を総体として捉えている精神分析学派の各理論を紹介し、人格の発達を概観し、事例を通して人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れながら、受講者自身が今まで以上に自分について、また、人間について考える一助としたい。	【講義計画】 1) 人格（パーソナリティ）とは 2) 精神分析の基礎理論（フロイト） cf. エングの分析心理学 3) 乳幼児精神分析（アンブロイト・マレー・グライ、D.W. ウィニコット） 4) ライフサイクルから見た発達について（E.H. エリクソン）			
【成績評価の方法】 学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。	【参考文献】 随時講義中に紹介する。			
【教科書】 特に指定はしない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉施設処遇論		通 期	4 単位	(前期) 坪 山 孝 (後期) 松 端 克 文
【講義概要・学習目標】 社会福祉施設は変動のさなかにあるが、これまでも今後も生活の場を提供しつつ、利用者に対して生活援助サービスを提供することに変わりない。日常的なサービスは利用者のQOLの確保や利用者主体、自立支援などの理念に基づいて提供される。良質のサービスを提供するためには施設職員の援助観の共有が必要であり、職員自身が日常におけるサービスをどのように提供しているかを自己点検することが必要である。 施設サービスの現状と問題点を考察し、実践現場のサービスを理解する手がかりとなる講義をしたい。	【講義計画】 前期 1 サービスの理念 2 サービスの原則 3 サービス計画 4 日常生活管理 5 処遇の質の管理 6 サービス評価基準 後期 障害児・者関係施設 1 社会福祉における施設サービスの位置づけ 2 施設サービスの歴史的展開 3 施設サービスの利点と限界 4 施設サービスの地域化 5 施設サービスの実際（事例検討） 6 サービス評価基準、利用者の権利擁護システム			
【成績評価の方法】 学年末の試験による	【参考文献】 授業時に紹介する			
【教科書】 使用しない 適宜プリントを配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生活環境論		前 期	2 単位	北 野 誠 一
【講義概要・学習目標】 日本においても、やはり、障害者や高齢者は家や施設で「おとなしくしていればよい」という考え方が改められつつある。 しかし、障害者・高齢者が自由に安全に移動したり、活動したりできる生活環境作りは、まだまだこれからである。 そこでこの講義では、マクロな生活環境であるまちづくりに必要なバリアフリーやユニバーサルデザイン等の考え方をひととおり考察する。さらに自分の学ぶ大学周辺の生活環境を調査し、報告することによって、必要なまちづくりの視点と調査やアドバイスの視点を学ぶ。	【講義計画】 1. 生活環境の大切さ 2. 福祉のまちづくりと機会平等 3. 障害を持つ人が住みよいまちづくり 4. バリアフリーとユニバーサルデザイン 5. 車イス障害者にとってバリアフリーとは 6. 視覚障害者にとってバリアフリーとは 7. グループに分かれて調査活動 8. グループでの調査報告			
【成績評価の方法】 班による調査活動及び報告活動における貢献度と個人による調査報告（レポート）等。	【参考文献】 定藤文弘編「福祉のまちづくり」 （朝日新聞厚生文化事業団 1994）			
【教科書】 荒木・中野・定藤編著 講座 障害をもつ人の人権第2巻 『社会参加と機会の平等』（有斐閣、1999）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護概論	01 02 03	9月集中 9月集中 9月集中	2単位 2単位 2単位	臼井 キミカ 佐瀬 美恵子 津村 智恵子
[講義概要・学習目標] 1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。	[講義計画] 1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本 1) 住生活環境の安全管理（感染防止） 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体の清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持（運動と機能維持） 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等） 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方 4 介護活動の場特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設			
[成績評価の方法] レポートに出席状況を加味して評価する。				
[教科書] 編集代表 津村智恵子、臼井キミカ『介護実践ハンドブック』（日総研出版）定価3,500円	[参考文献] その都度紹介する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護演習	01 02 03	9月集中 9月集中 9月集中	2単位 2単位 2単位	臼井 キミカ 佐瀬 美恵子 津村 智恵子
[講義概要・学習目標] 介護演習は介護概論を受けて実践的に介護の理論と技術を展開することを目的とする。加齢や心身の障害によって日常生活が自力では行えない人を、どうすれば残存機能が最大限にいかせるか、人の尊厳や個性性を尊重しながら援助できるか、予防的視点を持って日常生活が自立できるか、更に生涯にわたって成長・発達し続ける存在としての人を介護ではどう援助できるかを、具体的事例を用いて学び合う。	[講義計画] ひとり暮らし高齢者、痴呆性高齢者、進行性の障害児・者等の事例を用いて、小グループに分かれて具体的な援助方法を学ぶ。 1. コミュニケーションの方法 2. アセスメントの方法と記録方法 3. 社会資源の活用と調整の方法 4. 介護技術の展開 5. モニタリングと評価方法 6. まとめ			
[成績評価の方法] レポートと平常点（出席率及び演習への参加状況）を総合して評価する。	[参考文献] その都度紹介する。			
[教科書] その都度紹介する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
臨床心理学		通 期	4 単位	川 口 茂 雄
〔講義概要・学習目標〕 今日、「もの」が豊かになるにつれて、「こころ」の重要性がしだいに認識されるようになっている。このような時代にあって、臨床心理学は、医療、福祉、教育、司法、産業、地域社会などの各臨床現場で、「こころ」の問題や葛藤で悩み苦しんでいる人々を、心理学的な知識や技法を用いて援助してゆく、極めて実践的な学問である。 本講義では、先ず臨床心理学発展の歴史を振り返りながら、その独自性、特色を明らかにした上、基礎的な人格理論や対象となる各発達段階での課題と病理を学習させる。次に、心理臨床の実践現場での人格理解の方法（面接、各種心理検査）及び心理療法の幾つかの技法について、時間を割いて習得させる。講義の中では、受講者自らが心理検査を試行的に実施したり、事例検討を行ったり、またビデオによる実際場面の試聴をととして、「実践の学」である臨床心理学の理解を一層深めさせる。	〔講義計画〕 1 臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の理論的視点 3 臨床心理学の対象 (1) 発達臨床と適応障害 (2) 心理臨床の実態 4 臨床心理学的査定技法 (1) 面接と行動観察 (2) 知能検査 (3) 性格検査 5 臨床心理学的援助の技法 (1) 個人療法 (2) 集団療法 (3) 家族療法 6 臨床心理学の今後の課題			
〔成績評価の方法〕 レポート提出及び期末試験の成績等によって総合的に評価する。	〔参考文献〕 馬場健一編「臨床心理学」弘文社 野島一彦編「臨床心理学への招待」ミネルヴァ書房 岡堂哲雄編「心理臨床入門」新曜社			
〔教科書〕 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健学		通 期	4 単位	郭 麗月
〔講義概要・学習目標〕 1 精神保健についての基本知識について理解させる。 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。 6 関連法規および施設について理解させる。	〔講義計画〕 1 精神保健についての基本知識 1) 精神保健の概要 2) 精神保健の意義と課題 2 ライフサイクルにおける精神保健 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健 2) 学童期における精神保健 3) 思春期における精神保健 4) 青年期における精神保健 5) 成人期における精神保健 6) 老年期における精神保健 3 精神保健における個別課題への取り組み 1) 精神障害者対策 2) 老人性痴呆疾患対策 3) アルコール関連問題対策 4) 薬物乱用防止対策 5) 思春期精神保健対策 6) 地域精神保健対策 7) ターミナルケアと精神保健 4 精神保健活動の実際 1) 家庭における精神保健 2) 学校における精神保健 3) 職場における精神保健 4) 地域における精神保健 5 地域精神保健と地域保健 1) 地域精神保健施策の概要 2) 地域保健施策の概要 3) 関係法規 4) 関連施策 6 諸外国における精神保健			
〔成績評価の方法〕 レポート、定期試験	〔参考文献〕 適時紹介する。			
〔教科書〕 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 『精神保健学』（へるす出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
カウンセリング		通 期	4 単位	川 口 茂 雄
【講義概要・学習目標】 現代は不安の時代と言われている。人びとは、厳しい社会状況の中で、孤独と強いストレスにさらされ、家庭、学校、職場などでの人間関係で悩み苦しんでいる。このような不適応状況にある人びと（クライアント）が、援助者（カウンセラー）とのコミュニケーションによって、人間関係の改善や自己実現を図ってゆく心理学的面接をカウンセリングと呼んでいる。 カウンセリングでは、カウンセラーはどのような態度や技法でもってクライアントとのかかるのか、カウンセリングはどのように展開してゆくのか、カウンセリング過程で生ずる諸問題をどのように解決すべきか、各分野でのカウンセリングの実際はどのようなものなのか。 本講義では、先ずカウンセリングの基礎的理論、技法、進め方などを学習させ、さらにロールプレイによる体験学習を実施しながら、カウンセリングの実際を具体的に理解させる。	【講義計画】 1 カウンセリングとは何か 2 カウンセリングの理論 3 カウンセリングの基本原則 4 カウンセリングの技法 5 カウンセリングの展開 6 カウンセラーとクライアントとの関係性 7 カウンセリングの終結 8 カウンセリング過程で生じる諸問題の解決 9 結婚カウンセリング 10 学校カウンセリング 11 ロールプレイによる体験学習 12 カウンセラーの訓練 13 カウンセラーの専門性と倫理			
【成績評価の方法】 レポート提出及び期末試験の成績等によって総合的に評価する。	【参考文献】 河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房 前田重治編「カウンセリング入門」有斐閣選書 氏原寛他著「カウンセリング初歩」ミネルヴァ書房			
【教科書】 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
レクリエーション・ワーク		通 期	4 単位	石 田 易 司
【講義概要・学習目標】 組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者へのレクリエーション指導の理論と技術を身につける。 施設などの福祉現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室内での受け身の授業で終わらず、積極的に野外に出て、安全やプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。	【講義計画】 ①福祉におけるレクリエーションの現状と課題 ②組織キャンプの理解 ③キャンプの対象とプログラム ④個々のプログラムの運営と指導 ⑤キャンプ実習 ⑥救急法実習 ⑦レクリエーションとセラピー ⑧記録と評価			
【成績評価の方法】	【参考文献】 「CAMPING FOR ALL」（エルビス社） 「いきいき高齢者キャンプ」（朱鷺書房） 「高齢者レクリエーション指導の手引き」（朝日新聞厚生文化事業団） 「福祉レクリエーションの展開」（中央法規）			
【教科書】 「痴呆性老人とキャンプ」（朱鷺書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
福祉事情研究		通 期	4 単位	中 村 永 司
〔講義概要・学習目標〕 現代社会における福祉問題の発生原因や背景をさぐり、問題の特質や形態を明らかにする。 すなわち現代社会の仕組みや成り立ち、これらの矛盾から派生する福祉問題としての児童問題、高齢者問題、障害者問題やこれらの問題を包含する家族生活問題を分析し、政策課題としてのエンゼルプラン、ニューゴールドプラン、障害者プランを評価して、さらに社会福祉基礎構造改革や公的介護保険制度、成年後見制度などについて考察を深める。	〔講義計画〕 福祉問題の理論的研究や事例などによる実証的研究を行うとともに福祉問題解決のための方法論をさぐる。			
〔成績評価の方法〕 期末試験で評価	〔参考文献〕			
〔教科書〕 なし				

＜ 9 7 S 生以上・9 8 S W 生対象＞

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉特講 (社会福祉の動向分析)		通 期	4 単位	松 端 克 文
〔講義概要・学習目標〕 いま、わが国の社会福祉は大変革期を迎えている。そのひとつの特徴は、介護保険法の導入や社会福祉基礎構造改革・社会福祉事業法等の改正などに関する議論において「措置から契約へ」と表現されているように、社会福祉をより普遍的なサービスへと改革するところにある。社会福祉を実践していくうえで、そうした動向を正確に把握することは重要である。しかし、社会福祉が普遍化していくことで、市場との境界が曖昧になり、また他の専門職との違いが不明確になるというような状況を生じさせている。それだけに社会福祉の固有性、あるいはソーシャルワークの固有性を再確認するという作業がより重要な課題であるといえる。 本講ではそうしたことをふまえ、福祉専門職として備えておくべき知識や技術、判断力の習得に力点を置く。とくに社会福祉士試験対策を兼ねて、社会福祉原論、地域福祉論、福祉分野別各論、援助技術論、社会保障論などの福祉専門科目の学習を通じて、受講生が福祉専門職としてのアイデンティティを形成していけるよう心がけたい。 なお、昨年度の社会福祉特講（現代社会福祉事情研究）の受講生も歓迎する。	〔講義計画〕 （前期） 1. 社会福祉改革の動向の把握 2. 社会福祉原論（歴史、思想、理論、法・制度） 3. 地域福祉論 4. 老人福祉論 5. 障害者福祉論 （後期） 6. 介護保険制度の取り組みの現状と課題 7. 社会福祉援助技術（総論、各論Ⅰ、各論Ⅱ） 8. 児童福祉論 9. 公的扶助論 10. 社会保障論			
〔成績評価の方法〕 出席、小テスト、後期テストなどで総合評価する。	〔参考文献〕 ○厚生統計協会編『国民の福祉の動向』（厚生統計協会） ○厚生省編『厚生白書』（ぎょうせい） ○社会・介護福祉士受験ワークブック編集委員会編『社会福祉士受験ワークブック』上・下（中央法規） ○『必携社会福祉士』＜専門科目編、関連5科目編＞（簡井書房） ○『社会福祉士国家試験解説集』（中央法規） ○『社会福祉士模擬問題集』（中央法規） ○『社会福祉士国家試験予想問題集』（誠信書房）			
〔教科書〕 ○社会福祉養成講座編集委員会編集『改訂 社会福祉養成講座 全15巻』中央法規 ○その他随時プリント資料配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉特講（保健・医療・福祉の連携）		通 期	4 単位	中 村 永 司
[講義概要・学習目標] 保健・医療・福祉の連携の必要性和意義を明らかにし、これらの分野の特質や目的を分析して、連携の方策をさぐる。 さらに保健・医療・福祉の連携による在宅福祉サービスの体系、内容、方法をさぐり、社会福祉の方向性と課題を探究する。	[講義計画] 理論的研究と事例による実証的研究を行う。			
[成績評価の方法] 期末試験で評価	[参考文献]			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	0 1	通 期	4 単位	冷水 啓子
[講義概要・学習目標] 1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。 5 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。	[講義計画] 1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常 2 人間の成長・発達と心理 3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格 4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法） 2) 家族心理療法 3) 行動療法			
[成績評価の方法] 学年末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。				
[教科書] 福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）	[参考文献] 市川伸一（編）『心理測定法への招待』（サイエンス社） 松原達哉（編）『最新 心理テスト法入門』（日本文化科学社） 中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	0 1	通 期	4 単位	前田 徹生
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
概 要 市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。 目 標 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。		1 社会生活と法 2 憲法 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 3 民法 1) 総則（成年後見を含む） 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 4 行政法 1) 行政行為及び行政手続 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 情報公開 5) 地方行政組織		
[成績評価の方法]		参考文献]		
前期、後期の二度の試験を総合して評価する。		伊藤正己・加藤一郎 編 『現代法入門』（第3版補訂版） 有斐閣 中谷実 編 『ハイブリッド憲法』 頸草書房 芦部信喜 『憲法』 岩波書店 谷口知平・甲斐道太郎 編 『現代民法入門』（新版） 法律文化社		
[教科書]				
伊藤正己 『法学』（第二版） 有信堂				

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担 当 者	頁	クラス	担 当 者	頁	クラス	担 当 者	頁
0 1	島田 文彦	295	1 1	岩田 賢造	297	2 1	永田 淳次	298
0 2	島田 文彦	295	1 2	島田 文彦	295	2 2	永田 淳次	298
0 3	水口 薫	295	1 3	島田 文彦	295	2 3	水口 薫	299
0 4	毛利進太郎	296	1 4	田村 昶三	297	2 4	水口 薫	299
0 5	毛利進太郎	296	1 5	田村 昶三	297	2 5	水口 薫	299
0 6	巖 圭介	296	1 6	田村 昶三	297	2 6	水口 薫	299
0 7	巖 圭介	296	1 7	田村 昶三	297	2 7	水口 薫	299
0 8	岩田 賢造	297	1 8	藤間 真	298	2 8	水口 薫	299
0 9	岩田 賢造	297	1 9	永田 淳次	298	2 9	水口 薫	299
1 0	岩田 賢造	297	2 0	永田 淳次	298	3 0	水口 薫	299

〔注意〕

1. 実習をともなう授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。
2. どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としている。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。
5. 学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）（2単位）・社会福祉学科自由科目（2単位）に位置づけられている。
6. 募集は、次の日程で実施する。

〈申込受付〉学務課窓口

98・99SW生…3月31日（金）～4月1日（土）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈クラス発表〉4月12日（水）アンデレ館下掲示板

7. 申込方法

- ・「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。
- ・希望するクラスを3つ以内記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。
- ・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	01 02 12 13	9月集中 9月集中 前期 後期	2単位 2単位 2単位 2単位	島 田 文 彦
【講義概要・学習目標】 近年、コンピュータは「読み（＝情報の取得）」「書き（＝情報の作成）」「そろばん（＝情報の加工）」のための道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としての働きにも注目が集められている。これにより、コンピュータは情報にかかわる祭の手段としてより大きな役割を持つようになっている。 また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。 本講義では、情報の取得、加工、発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶことと、その知識を用いてコンピュータ、アプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れない他のアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力をつけることを目的とする。		【講義計画】 ・コンピュータの概要と操作方法 ：共通した操作方法の理解 ・文書の作成 ：ワープロを用いた文書の作成と修飾 ・情報の加工 ：表計算ソフトを用いた情報の加工 ・コミュニケーション ：電子メールソフトによる情報の伝達 ・情報の取得と検索 ：WWWの効率的な利用		
【成績評価の方法】 講義時の課題、レポート、出席により評価する。		【参考文献】 桃山学院大学計算機センター（編） 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』		
【教科書】 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	03	9月集中	2 単位	水 口 薫
〔講義概要・学習目標〕 近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。	〔講義計画〕 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性、活用について			
〔成績評価の方法〕 講義時の課題、レポート、出席により総合評価。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	04 05	9月集中 9月集中	2単位 2単位	毛利進太郎
[講義概要・学習目標] 近年、コンピュータの発達により、単に計算を行うだけでなく様々な場面で活用されるようになってきている。またインターネットの発達により、様々な情報が電子的に流通し、また発信することが可能となってきている。そこではコンピュータの専門的知識だけではなく、道具として扱うことができる知識が必要となる。 そこで本講義ではコンピュータの基本的な概念を学習し、加えてそれらを身近な道具として使い、またインターネット上の様々な情報を活用するための知識を演習を通して習得することを目的とする。	[講義計画] 以下の事柄について講義を行う予定である。 1. コンピュータの基礎的概念 2. Windows95の操作 3. ワードプロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール、WWW）の活用 5. 表計算の基本的操作 各項目について数回の演習を主体とした講義を行う			
[成績評価の方法] 随時課題を出し、出席状況と合わせて評価を行う。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター 「桃山学院大学計算機センター ユーザーズ・ガイド」			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	06 07	前期 後期	2単位 2単位	巖 圭 介
[講義概要・学習目標] コンピュータを使わずに仕事をすることがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワードプロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。 一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。 この授業では、コンピュータに触ったことのない人を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワードプロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。 コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要もある。	[講義計画] 下記の項目について実習を行う。 ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール ・インターネット ・ワードプロセッサ ・表計算 ・プレゼンテーション ・ホームページの作り方			
[成績評価の方法] 出席状況と期末の実技テストによる	[参考文献] とくになし			
[教科書] 桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」 (最初の授業で支給します)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	08 09 10 11	前 期 後 期 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	岩 田 賢 造
【講義概要・学習目標】 インターネットの普及に伴い、エレクトロニック・コマース（E C）など新しい情報技術（I T）を利用した、新しい事業やベンチャー企業が出現しています。 日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、日本経済の再生には情報技術（I T）の効果的な利用が必須になります。 授業では、コンピューターを利用する上で必要な、基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。		【講義計画】 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基礎 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロセッサ 6) 表計算ソフトの活用 7) データ分析とグラフ表現 8) その他の情報活用技法と事例紹介		
【成績評価の方法】 出席を重視します。数回のレポートとテストによる 総合評価を行います。 予習・復習などは時間外に行なっていただきます。		【参考文献】 桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。		
【教科書】 必要に応じて指示します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	14 15 16 17	前 期 後 期 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	田 村 昶 三
【講義概要・学習目標】 パソコンを使ったインターネット（電子メールと WWW）は常識になった。しかし、習熟するには、時間とエネルギーがかかる。それを効率的に勉強するパソコン入門者を対象とするパソコン基礎習得を目的とする。パソコンを道具として使いこなすためには、避けて通れない「壁」があります。その壁を越えるための授業です。パソコンの「基礎の基礎」を勉強します。 情報処理は大まかに(1)情報収集－(2)情報整理－(3)情報伝達－(1)情報保管・蓄積－(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(2)－(3)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンを実習を通して基礎から勉強を始めます。 ビジネスで使われる文書・書類を中心に日本商工会議所検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にします。検定合格レベルになるには相当な努力が要る。サポートしますので積極的に自習をしてください。 初心者を対象にパソコン基本操作から始めます。パソコンの基礎の基礎といわれる所を十分に身につけ、あとは自分で努力することにより身につきます。その know-how も勉強します。		【講義計画】 1. パソコンについて 2. パソコンの基本操作（キータッチ） 3. ワープロソフト（文字入力、文書作成編集、美しい文書表現） 4. 表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成） 5. POWER POINT の使い方 6. インターネットの利用（WWW、電子メール、メールマガジン） 7. 情報保管蓄積、情報検索 8. ファイリングとキャビネット 9. 情報技術（IT）を活用するには ワープロ（一太郎と WORD）を使い切る。入力のスピードをペンで書くより速く入力できるようになる。 表計算（EXCEL）の基本的な使い方がわかり基礎的な使い方はこなせる。 電子メールをつかってコミュニケーションができる。 インターネットの WWW で情報の検索ができる。 日本商工会議所主催の「日本語文書処理技能検定試験」の合格を目指す。		
【成績評価の方法】 出席が3分の2以上で、電子メールによる提出、毎週の理解度テスト、学期末試験により総合的に評価 する。		【参考文献】 桃山学院大学計算センター（編）『ユーザーズガイド』		
【教科書】 教材は、プリントで配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用I	1 8	前 期	2 単位	藤 間 真
〔講義概要・学習目標〕 「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。 本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。 本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピュータの経験を持つものは遠慮されたい。 また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないで単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。	〔講義計画〕 下記の項目について説明した上で、実習を行う。 ・パソコンについて ・タッチメソッドの修得 ・電子メール ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・WWWブラウザソフト			
〔成績評価の方法〕 出席状況、実習の成果物の提出（数回を予定している）及び学期末の試験により評価する。	〔参考文献〕 進行状態に応じて指示する。			
〔教科書〕 桃山学院大学計算機センター編 ユーザーズガイド				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	1 9 2 0 2 1 2 2	前 期 後 期 前 期 後 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	永 田 淳 次
〔講義概要・学習目標〕 コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特長を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。 本講義では、初心者がコンピュータの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。 また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。	〔講義計画〕 1. コンピュータの概要と基本的な操作 2. メールによるコミュニケーション 3. 日本語文書の作成 4. インターネットの基礎知識 5. プレゼンテーション			
〔成績評価の方法〕 課題の提出物による総合評価。出席は3分の2以上。	〔参考文献〕 桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』			
〔教科書〕 必要に応じてプリントを配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	2 3 2 5 2 7 2 9	前 期 前 期 前 期 前 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	水 口 薫
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。		1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性、活用について		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。				
〔教科書〕				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	24 26 28 30	後 期 後 期 後 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	水 口 薫
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。		1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性、活用について		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。				
[教科書]				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

